



電子カルテ代行入力問題集

平成 25 年度文部科学省

東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

電子カルテ代行入力問題集

福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

＜Ⅰ＞本書の目的等

（１）本書の目的：「電子カルテにおける代行入力用教材」の新規作成

本書は「電子カルテにおける代行入力」を実践できる人材を育成するために必要とされる新たな教材開発を目指したものです。

（２）本書使用上の留意点

- 学習の前提として、医療事務の学習、レセコン学習が履修済みであると理解もし易いといえます。
- 本書では、問題例の提示とともに一部において医学的知識等も深められるような展開も試んでいます。教育担当者の方はそうした工夫も自由に取り入れてみてください。
- 電子カルテシステムは、オーダーリングシステムと融合化され病院システムの中核を成すものともいえます。本書の学習内容は、オーダーリングシステムの入力学習にも通じるものと考えています。

＜Ⅱ＞本書の構成と活用方法等

（１）本書の構成

本書は演習問題（第１部と第２部）とその入力見本（第３部）の３部構成となっています。

第１部 演習問題	・電子カルテ入力練習用に作成した演習問題 20 症例を作成。 ・幾つかの診療科における診療内容等を問答形式等にて表現しています。入力者は、担当医師としています。
第２部 代行入力用演習問題	・上記演習問題より 2 問を抜粋。入力者を代行入力者として問題をデフォルメしています。
第３部 入力見本	・SOAP形式による上記症例の入力見本（作成カルテ見本）。 ・使用ソフトにより表示内容など仕様が異なる面もありますので参考としてお考えください。

(2) 活用方法等

本書を活用する際は、以下の事柄にご留意ください。

<演習問題等の作成にあたっての意図>

- ・入力問題は問答形式が現状では最適との考えから、その実践として問題作成を試みています。
- ・ドクター秘書（医師事務作業補助者、医師事務作業補助者と同様の業務を行う者）の教育を考えるにあたり、ここでは汎用性的側面を考え主に外来症例を取り上げています。なお、電子カルテの入力そのものに関しては、基本的には外来も入院も同様に差違はありません。
- ・色々な診療科について考えておく必要があることから、複数の診療科の症例を取り上げています。
- ・初めて電子カルテを操作する方も予想されます。まずは入力に慣れていただくことをも考え、第1部は入力者を担当医師とする設定としています（一般的な電子カルテの使われ方に対する演習としてください）。入力者を代行入力者とする設定は第2部にて試みています。
- ・入力見本は、SOAP形式のソフト（電子カルテ）を用いて作成しています。電子カルテは、メーカーにより様々な仕様のものがありますが、病院向けに関してはこのところメーカーシェアの寡占化が進んでおり、病院に関してはまずSOAP形式と考えてよい状況といえます。これは、病院の場合チーム医療が強く推進されており、誰が見ても分かりやすく、判断等が付けやすくするためSOAP形式といった、入力に際しての一定の約束事が求められるためといえます。

目 次

(P)

< I >本書の目的等		iii
< II >本書の構成と活用方法等		iii
目次		v
第 1 部 演習問題	第 1 号	2
	第 2 号	8
	第 3 号	1 2
	第 4 号	1 8
	第 5 号	2 2
	第 6 号	2 6
	第 7 号	3 0
	第 8 号	3 4
	第 9 号	3 8
	第 10 号	4 2
	第 11 号	4 6
	第 12 号	5 4
	第 13 号	5 8
	第 14 号	6 4
	第 15 号	6 8
	第 16 号	7 4
	第 17 号	7 8
	第 18 号	8 2
	第 19 号	8 6
	第 20 号	9 0
第 2 部 代行入力用演習問題	第 2 号デフォルメ	9 6
	第 9 号デフォルメ	1 0 2
第 3 部 入力見本	第 1 号	1 0 8
	第 2 号	1 1 0
	第 3 号	1 1 2
	第 4 号	1 1 4
	第 5 号	1 1 6
	第 6 号	1 1 7
	第 7 号	1 1 8

(P)

第3部 入力見本	第8号	1 1 9
	第9号	1 2 1
	第10号	1 2 2
	第11号	1 2 3
	第12号	1 2 5
	第13号	1 2 6
	第14号	1 2 7
	第15号	1 2 8
	第16号	1 3 0
	第17号	1 3 1
	第18号	1 3 3
	第19号	1 3 4

第1部 演習問題

＊演習問題の入力にあたっては、下記の条件に基づくものとします。

- **入力者**・・・・・・担当医師とします(冒頭の問題番号の右横に氏名を記載しています)。
 - **診療科**・・・・・・冒頭の問題番号の右横に担当医師名とともに記載しています。
 - **医療機関**・・・・・・一般の病院（許可病床数＝100、一般病床数＝100）
 - **通常の診察時間**・・・午前9時～午後6時 ● **休診日**・・・・・・日、祭日
 - **尿一般検査等**は全て院内検査とする。
 - **院内処方**とする。 ● **薬剤師**は常勤とする。
- ※問診票は、初診の場合のみ有りとして記載しています（診療科により異なる部分がありますが共通の一般的事項についてのみ記載）。
- ※受付時刻＝入力時刻として処理してください。
- ※オーダー機能対応している項目は、オーダー入力を行ってください（任意）。



＜演習問題＞	患者名	担当医	診療科	外来・入院	P
第1号	中山 裕子	小林 勉	内 科	外来	2
第2号	杉山 康太	〃	〃	〃	8
第3号	杉田 俊哉	〃	〃	〃	1 2
第4号	小野 郁子	加藤 泰造	皮膚科	〃	1 8
第5号	矢島 剛	福島 明	耳鼻いんこう科	〃	2 2
第6号	小山 順子	渡辺 明男	眼科	〃	2 6
第7号	佐々木 吉伸	田口 三郎	外科	〃	3 0
第8号	近藤 正人	山村 正	整形外科	〃	3 4
第9号	三和 秀樹	高橋 光彦	泌尿器科	〃	3 8
第10号	山崎 さゆり	森山 京子	産婦人科	〃	4 2
第11号	井上 小百合	小林 勉	内 科	〃	4 6
第12号	山際 由美子	田口 三郎	外科	〃	5 4
第13号	三浦 真理子	福島 明	耳鼻いんこう科	〃	5 8
第14号	岩田 清子	山村 正	整形外科	〃	6 4
第15号	金子 一郎	福島 明	耳鼻いんこう科	〃	6 8
第16号	松枝 治	山村 正	整形外科	〃	7 4
第17号	高野 信雄	山村 正	整形外科	〃	7 8
第18号	小野 祐司	斎藤 京子	小児科	〃	8 2
第19号	早坂 みゆき	渡辺 明男	眼科	〃	8 6
第20号	杉山 涼子	外山 義明	外科	入院	9 0

《注》演習問題における固有名詞は全て架空です。内容についても問題演習用のための創作で、医学的事実と相違することがありますのでご了解ください。

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	中山 裕子			性別	男	女	
生年月日	昭和57年3月9日						
保険者番号	01130012		記号	88426874		番号	15
被保険者氏名	中山 忠彦		被保険者との続柄			妻	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割	

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。
＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年5月7日					
①バイタルサイン	身長	154.6cm	体重	47.0Kg	体温	36.8℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
今朝から急に下痢、嘔吐、腹痛						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・ <u>なし</u> ） ●睡眠（よく眠れる・ <u>普通</u> ・不眠）						
●便秘（普通・ <u>異常あり</u> 〔今朝から下痢〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
腎盂腎炎（25歳位）						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔卵、さば〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・ <u>なし</u>						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、 <u>いいえ</u> ） ・授乳中ですか（はい、 <u>いいえ</u> ）						
・月経（ <u>順調</u> 、不順） ・最終月経（ 月 日～ 月 日）						
・閉経（ 歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数3日分

来院日	平成25年5月7日（火）	受付時刻	午前9：00
-----	--------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「どうぞおかけください。」

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「今朝から急に下痢になってしまって。お腹も痛いんですよね。」

医師

・（問診票のバイタルサインを見ながら）

「嘔吐もありましたか。でも熱はなさそうですね。倦怠感はありませんか？」

患者さん

・「嘔吐はありません。熱も大丈夫です。でも、身体がだるい感じはします。」

医師

・「なるほど。ちょっと診てみましょう。」

<患者さんに触診等を実施。下記事項を入力。>

- 特に下腹部痛著明。
- シェーマ図を用い、下腹部に網掛けを施す。
- 「急性胃腸炎」と診断（傷病名等入力）。

患者さん

・「いかがでしょうか？」

医師

・「急性の胃腸炎ですね。急性胃腸炎は脱水症状を防ぐことが大切です。そのため、スポーツドリンクのようなものを頻繁に摂るようにしてください。また、食事は嘔吐や下痢の症状が治まってから摂るようにして、なるべく胃腸に負担のかからない生活を心掛けてください。それから、病原体は人体外でも長時間生存しています。トイレを出た後、食事前などこまめに手を洗い周囲の人に感染しないようにしてください。薬を出しておきますので、今日はよく休んで様子を見てください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

- R P

{	ブスコパン錠（10）	6 T
	ラックビー微粒N	3.0
	酸化マグネシウム「ニッコー」	1.0
- 分 3(毎食後)× 4 T D

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供 (文書))

来院日	平成25年5月13日 (月)	受付時刻	午前10:10
-----	----------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「失礼します。」

医 師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「薬が効いたみたいで、すっかりよくなりました。
ただ、排尿時に痛みがあり、血尿がでるのですが…。」

医 師

・「急性胃腸炎はよくなっているようですね。ただ、排尿痛と血尿は気になりますね。うーん。残尿感はありますか？」

患者さん

・「確かになんかすっきりしませんね。」

医 師

・「それでは尿の検査をしましょう。」

<下記の検査を指示>

●尿一般検査

看 護 師

<患者さんを誘導>

医 師

<検査結果を確認し、下記事項を入力>

●排尿痛著明。

●前回の症状軽快。

●「急性胃腸炎」5/10 治ゆ、「出血性膀胱炎」と診断 (傷病名等入力)。

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医師

・「出血性の膀胱炎を起こしているようです。前回の急性胃腸炎からも考えて、アデノウイルスに感染したことが原因だと思います。
今日は、別の薬を出しておきますので、少し様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P ①バクシダール(100) 4 T
分4(毎食後、就寝前)×4 T D
② $\left\{ \begin{array}{ll} \text{ボルタレン錠(25)} & 3 \text{ T} \\ \text{SM配合散} & 3.0 \end{array} \right.$
分3(毎食後)×4 T D

患者さん

・「ありがとうございます。」

医師

・「お大事に。」

【会計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年5月20日（月）	受付時刻	午前11:00
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「失礼します。」

医師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「排尿痛も残尿感も良くなりました。」

医師

・「そうですか、それはよかったですね。」

<下記事項を入力>

●経過良好にて症状改善。

・「それでは、前回と同じ薬をもうしばらく続けてみましょう。」

<以下の投薬を指示>

●R P 5/13①②d o 4 T D

患者さん

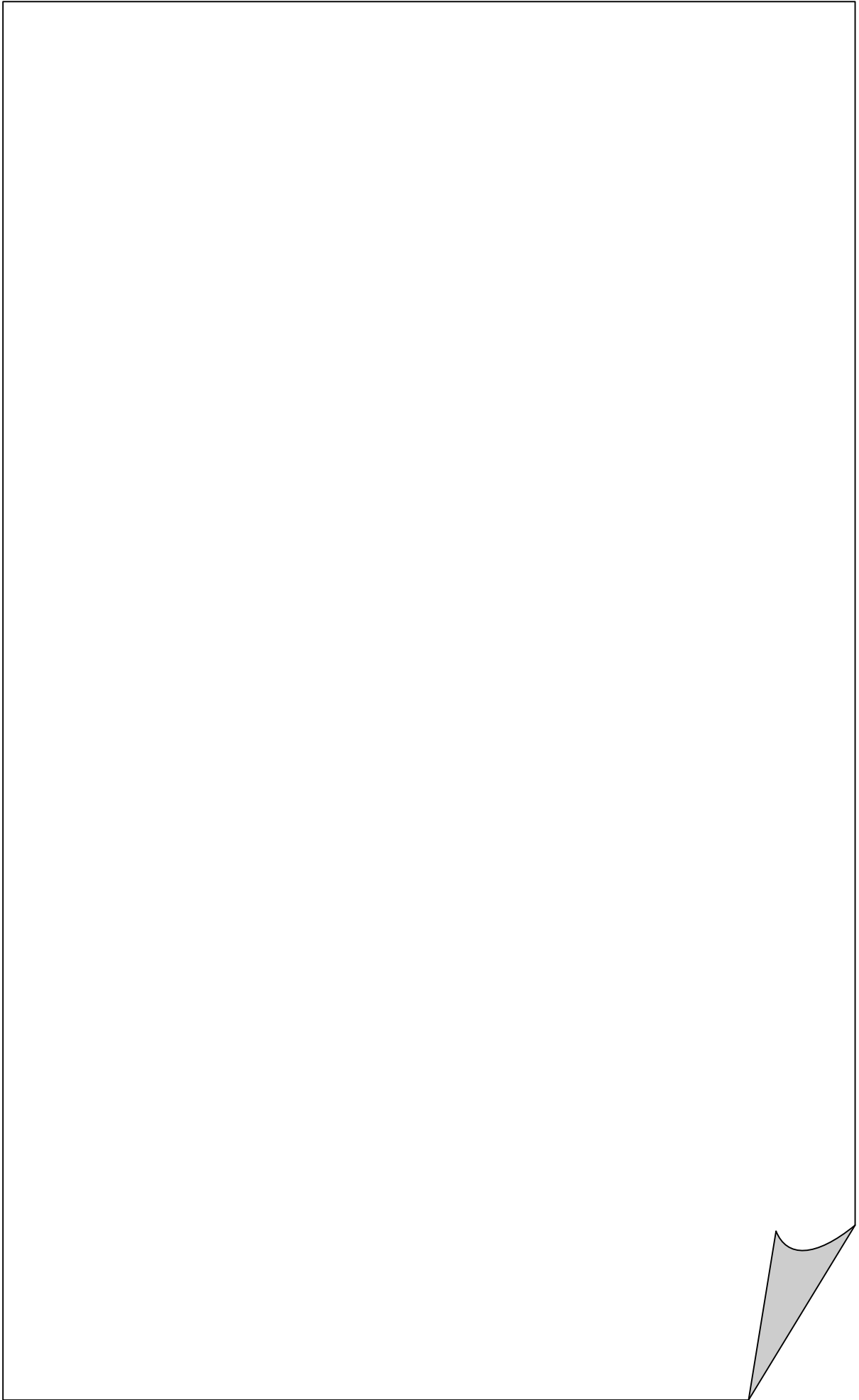
・「ありがとうございました。」

【会 計】

＜会計処理＞（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

＜薬を投与＞



【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	杉山 康太			性別	(男) 女		
生年月日	平成１９年５月１７日						
保険者番号	０６１３００９０		記号	３０		番号	５４８２１５
被保険者氏名	杉山 忠		被保険者との続柄		長男		
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割	

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年5月7日					
①バイタルサイン	身長	125.0cm	体重	28.0Kg	体温	37.0℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
昨日から頭痛(+)、咳(+)、痰(+)、食欲不振						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・ <u>なし</u> ） ●睡眠（よく眠れる・ <u>普通</u> ・不眠）						
●便秘（ <u>普通</u> ） 異常あり〔 〕						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔卵 〕・・・いつ頃〔3歳位の時 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・ <u>なし</u>						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（ はい 、 いいえ ） ・授乳中ですか（ はい 、 いいえ ）						
・月経（ 順調 、 不順 ） ・最終月経（ 月 日～ 月 日）						
・閉経（ 歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数3日分

来院日	平成25年5月7日（火）	受付時刻	午前9：30
-----	--------------	------	--------

※患者さん・・・主に同席の母親の発言によるものとします。

患者さん

<子供（患者さん）を連れて診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「この子の様子が昨日からおかしくなりまして・・・」

医師

<患者さんの訴えている症状の要点（下記）を入力>

●昨日から：頭痛（+）、咳（+）、痰（+）、食欲不振

・「ちょっと診せてください。」

<患者さんに聴診等を実施。下記事項を入力。>

●聴診：喘鳴（+）

●咽頭発赤（シェーマ図を用いコメントとして入力）

患者さん

・「いかがでしょうか。」

医師

・「のどかぜですね。喉も少し腫れて赤くなっていますが、心配ないでしょう。喉の処置と注射をしておきましょう。」

<看護師に以下の注射と処置の用意を指示し実施>

●スルピリン注射液 25%1mL 1A i M

●ルゴールトイン（口腔咽頭処置）

患者さん

・「ありがとうございました。」

医師

・「今日は、薬も出しておきますので、少し様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P

アブシードSY	15 c c
アスベリンSY	12 c c
アレルギン散	1.0
リン酸コデイン散 10%「タダ」	0.2

分3（毎食後）×2TD

・「安静にして、うがいを励行するようにしてください。」

<上記内容を指示した旨を入力>

患者さん

・「お世話様でした。」

医 師

・「お大事に。」

<下記事項を入力>

●「急性咽頭気管炎」と診断（傷病名等入力）。

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年5月13日（月）	受付時刻	午前10:30
-----	---------------	------	---------

患者さん

<子供（患者さん）を連れて診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「良くなってきたようですが、まだ咽頭が赤く、咳もです。」

医 師

・「そうですか、ちょっと診せてください。」<患者さんを診察>

・「もう一息ですかね。今日も喉の処置と注射をしておきましょう。」

<看護師に以下の注射と処置の用意を指示し実施>

●フェノバル注射液 100mg 1A i M

●5/7 d o 処置

・「今日は、少し薬を変えておきますので、様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P { アブシードS Y 15 c c
リン酸コデイン散 10%「タタ」 0.2
メプチンS Y 5 c c
分3（毎食後）×2 T D

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年5月20日（月）	受付時刻	午前11:30
-----	---------------	------	---------

患者さん

<子供（患者さん）を連れて診察室に入室>

- ・「よろしくお願いします。」
- ・「のどかぜの方は、完全に治ったんですが、別の病気が出まして・・・」

医 師

- ・「どんな症状ですか？」

患者さん

- ・「昨日から全身に発赤が出現して、かゆみもひどいようなんです。」

医 師

- ・「ちょっと診せてください。」

<患者さんを診察。下記事項を入力。>

- 全身に発赤、特に胸膜部、背部著明
- シェーマ図を用い、胸膜部、背部に網掛けを施す。
- 「急性咽頭気管炎」5/14 治ゆ、「汎発性急性湿疹」と診断（傷病名等入力）。

患者さん

- ・「いかがでしょうか。」

医 師

- ・「急性の湿疹ですね。かゆみもひどいようですので処置をしておきましょう。」

<看護師に以下の処置を指示し実施>

- 皮膚科軟膏処置 約 1600 cm²

フルコートクリーム	10 g
レスタミンコーワクリーム	30 g

- ・「内服薬とかゆい時に塗る薬を出しておきますので、様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

- R P ①

フラビタンSY	5 c c
ペリアクチンSY	7 c c

分3（毎食後）×5TD
- ②レスタミンコーワクリーム 30 g
(かゆみ時)

患者さん

- ・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

第3号 担当医：小林 勉（内科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	杉田 俊哉			性別	(男) 女	
生年月日	昭和３６年６月１６日					
保険者番号	０６１３２０６２	記号	１	番号	３５４２８	
被保険者氏名	杉田 俊哉		被保険者との続柄		本人	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割

【問診票】 →6/3 なし

*平成25年5月27日：「急性上気道炎」と診断

【診察内容】…診療実日数3日分

来院日	平成25年6月3日（月）	受付時刻	午前10:00
-----	--------------	------	---------

※患者さんは、先に体温測定と胸部単純X-P（4つ切×1）（アナログ撮影）を済ませています。

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「先に検査を行っていただきましたが、体温は37.5℃ですか。
熱があるようですね。」

患者さん

・「まだ微熱があります。それと咳、頭痛もあります。あと、痰も時々出ます。」

医師

・「そうですか。ただレントゲンを見てみると異常はないので、風邪だと思われます。」

<画像検査等の結果についても説明し、下記事項を入力>

- KT：37.5℃
- 胸部X-P：異常なし
- 咳（+）
- 痰（+）

患者さん

・「熱を下げるような処置をしては頂けないのでしょうか？」

医師

・「風邪など感染症による発熱やノドの腫れは、病原体を殺菌するための防御システムです。薬で無理に抑えると、病気そのものの治りを遅らせてしまうこともあります。無闇に熱を下げればよいというものではないのです。なので、今日は咳と痰に効き目があるお薬を出しておきます。」

患者さん

・「抗生物質は処方してもらえませんか？」

医師

・「いやいや、多くの場合、風邪の原因はウイルスによるものですから、細菌を対象とした抗生物質は効果がありません。」

・「薬も出しておきますので、少し様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

- RP アスペリン錠 10mg 6T
分3（毎食後）×2TD

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供 (文書))

来院日	平成25年6月15日 (土)	受付時刻	(21:00)
-----	----------------	------	---------

※往診を実施 (午後7:45～午後8:30、患家まで2Km)

患者さん

・「わざわざすみません。」

医 師

・「お電話では、高熱を発したとのことでしたが・・・」

患者さん

・「前の病気は完全に治って安心していたのですが、2～3日前から元気がなく、お電話する前に体温を測ったら39.1度もありまして・・・」

医 師

・「そうですか、ちょっと診せてください。」

<患者さんを診察。所見等の要点は下記のようにあった。>

●咳 (++)

●口蓋扁桃を中心に赤く腫れているのを確認

●嚥下痛 (+)

●病名診断・・・「急性上気道炎」6/5 治ゆ
「急性扁桃炎」と診断

患者さん

・「どうでしょうか？」

医 師

・「急性の扁桃炎ですね。詳しくは次回 (6月17日) 病院で検査もしてみますが、今日は処置をしておきましょう。」

<以下の処置を実施>

●ルゴール塗咽

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「解熱剤等を出しておきますので、大事にしてください。」

<水分を補給、栄養等についても指導>

<以下の薬を投与 (薬についても患者さんに一通り説明、薬剤情報提供 (文書)) >

R P ① { ケフレックス S Y 細粒 (200) 3.0
ポララミン錠 2mg 6 T
アスベリン錠 10mg 6 T
分 3 (毎食後) × 3 T D
②アルピニー坐剤 50mg(2 個)

<会計は次回の診察と併せてで結構であること、検査の手配をしておくので
来院したら先に検査を受けてもらうことを伝え、患家を退出>

医 師

<午後 9 : 0 0 : 病院に戻り本日の診察内容を入力。所見欄にシェーマ図も
添付 (喉のシェーマ図に「咽頭発赤 (+)」とコメントも付記) >

来院日	平成 2 5 年 6 月 1 7 日 (月)	受付時刻	午後 2 : 0 0
-----	------------------------	------	------------

※患者さんは、先に体温測定、尿一般検査、胸部単純 X - P (4 つ切 × 1) (アナログ撮影) を済
ませています。

医 師

<以下の検査結果等を入力>

● K T : 3 7 . 3 ° C ● 尿 (-) ● 胸部 X - P : 異常なし

患者さん

<診察室に入室>

医 師

・「今日の様子はいかがですか？」

患者さん

・「熱も大分下がって、食欲も出てきたみたいです。」

医 師

・「それはよかったですね。検査の結果も特に異常はありませんでした。
薬を出しておきますので、様子をみてください。この分なら、すぐ良くな
るでしょう。」

<以下の投薬を指示 (薬についても患者さんに一通り説明) >

● R P { アスベリン錠 10mg 9 T
フラビタン錠 5mg 9 T
分 3 (毎食後) × 3 T D

患者さん

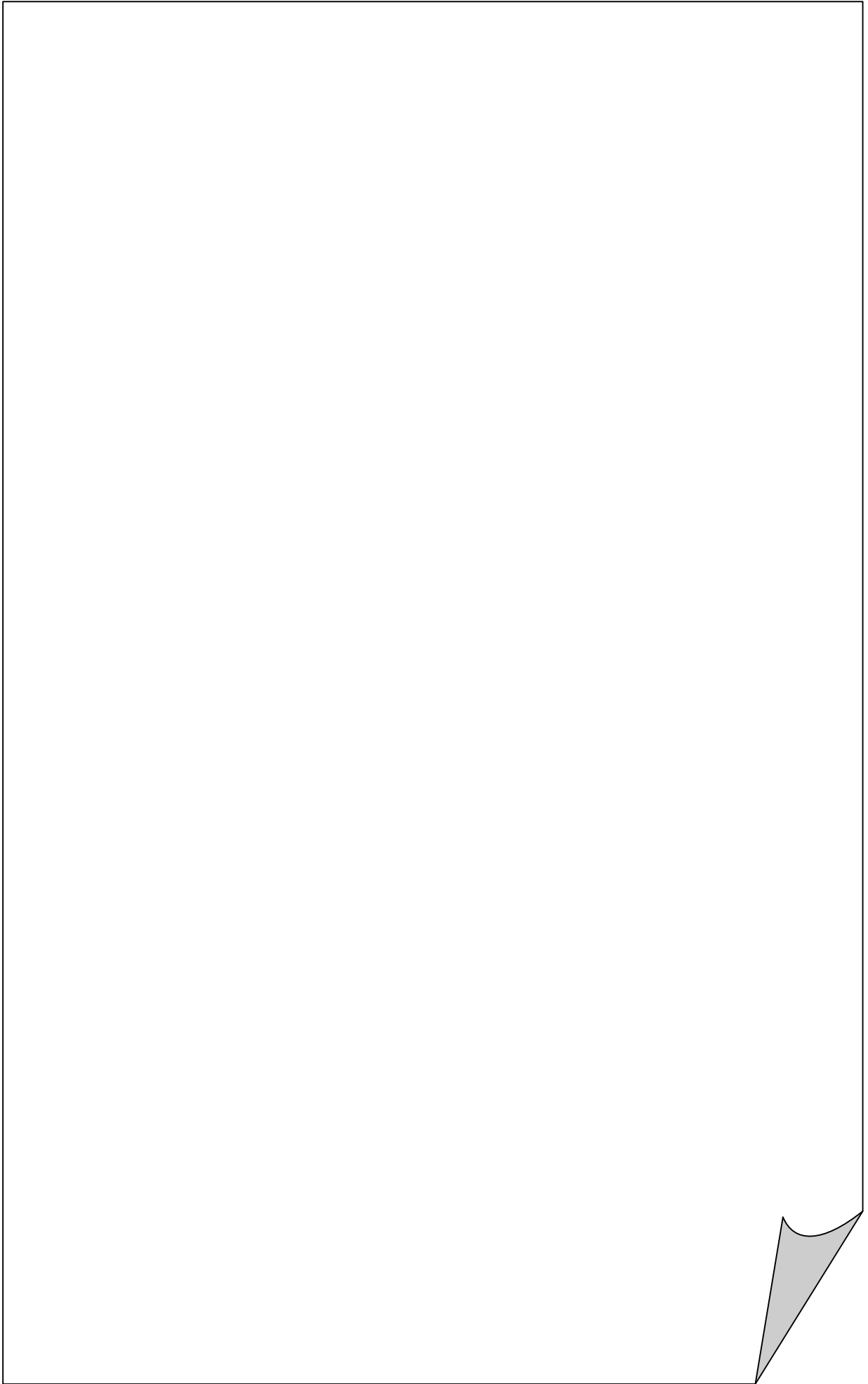
・「ありがとうございました。」

【会 計】

<（前日分・本日分）会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））



第4号 担当医：加藤 泰造（皮膚科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	小野 郁子			性別	男 (女)			
生年月日	昭和 5 3 年 9 月 2 3 日							
保険者番号	1 3 3 0 7 4		記号	7 5 - 2 9		番号	9 3	
被保険者氏名	小野 義男		被保険者との続柄		妻		一部負担金割合	3 割
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号			負担率	割	

【問診票】→8/4 なし（休日の急患のため）

【診察内容】・・・診療実日数3日分

来院日	平成25年8月4日（日）	受付時刻	午後7：20
-----	--------------	------	--------

患者さん

<日曜の夕刻急患として来院。診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「先ほど午後7時頃、自宅の風呂で左足に熱湯をかけてしまいました。すぐに水をかけたのですが、ひりひり痛みます。」

医 師

・「ちょっと診せてください。」<患者さんを診察>

患者さん

・「どうでしょうか？」

医 師

・「軽い熱傷ですので心配ないでしょう。すぐに処置をして注射をしておきましょう。深度が浅いので、10日から2週間もあれば治りますよ。感染さえ起こさなければ痕も残らないでしょう。」

<看護師に以下の処置、注射の用意を指示し実施>

●下肢熱傷処置・・・約600cm²

（バラマイシン軟膏 3g）

●ビクシリン注射用 250mg 1瓶 iM

（A q 5mL 使用）

患者さん

・「ありがとうございました。」<診察室を退出>

医 師

<診察結果として下記事項を入力。>

●皮膚が赤く、水ぶくれあり

●シェーマ図を用い、熱傷の部位に網掛けを施す。

「burn 1度。約600cm²。」とコメントも追記。

●「左下肢熱傷1度」と診断（傷病名等入力）。

【会 計】

<会計処理>

来院日	平成25年8月7日（水）	受付時刻	午前10:30
-----	--------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「大分良くなりました。水ぶくれも落ち着いてきましたし。」

医 師

・「そうですか。それはよかったですね。ちょっと診せてください。」

<患者さんの患部を視診。下記事項を入力。>

●経過順調

・「順調に回復しているようですね。今日もこの間と同じ処置と注射をしておきましょう。」

<看護師に以下の処置、注射の用意を指示し実施>

●8/4 処置 d o

●8/4 inj d o

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理>

来院日	平成25年8月30日（金）	受付時刻	午前9:30
-----	---------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・「この間の熱傷は完全に治ったんですが、天ぷら油がはねてしまって、左足の上をやけどしてしまって…。
さっきまで冷やしていたんですけど…。すみません。そそっかしくて。」

医 師

・「ちょっと診せてください。」 <患者さんを診察>

・「やけどしたのはいつですか？」

患者さん

・「今朝です。8時ごろお弁当作ってて」

医 師

・「これはかなりひどいですね。」

患者さん

・「確かにすごい痛いです。」

医 師

<看護師に以下の処置を指示し実施>

●処置・・・約 80 c m²
5%ヒビテン液 15mL
リンデロン VG 軟膏 3 g
ガーゼ 3枚
弾性包帯 1本
プレスネット3号 20cm

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「水疱はできるだけ破らないようにして、水疱の中に溜まった液体は清潔な針で穴を開けて抜くようにして下さい。鎮痛剤等も出しておきますので、お大事にどうぞ。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R p { ①ポンタール 250mg 6 C
ボルタレン錠 (25) 3 T
分3 (毎食後) ×3TD
②Lーケフレックス顆粒 (500mg) 4 g
分2 (朝・夕食後) ×3TD

患者さん

・「お世話様でした。」 <診察室を退出>

医 師

<診察結果として下記事項を入力。>

●皮膚表面の崩れ (+)
●水疱 (+)
●シェーマ図を用い、熱傷の部位に網掛けを施す。
「burn 2度。約 80 c m²。」とコメントも附記。
●「左下肢熱傷1度」8/9 治ゆ (傷病名等入力)
「左足背部熱傷2度」と診断 (")

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供 (文書))

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	矢島 剛	性別	男	女
生年月日	昭和48年12月18日			
保険者番号	34150011	記号	公立新潟	番号 21560
被保険者氏名	矢島 剛	被保険者との続柄	本人	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります(+)など。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年9月9日					
①バイタルサイン	身長	171.0cm	体重	65.3Kg	体温	36.6℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
今朝起きたら左耳がツーンとして、詰まっている感じがする。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠）						
●便秘（普通・異常あり〔 〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔鶏肉 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（ はい 、 いいえ ） ・授乳中ですか（ はい 、 いいえ ）						
・月経（ 順調 、 不順 ） ・最終月経（ 月 日～ 月 日）						
・閉経（ 歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年9月9日（月）	受付時刻	午前10:00
-----	--------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「今朝起きたら左耳がツーンとして、詰まっている感じがします。」

医師

・「ちょっと診てみましょう。」 <患者さんの両耳について視診を実施>

・「痛みはありますか？」

患者さん

・「いいえ。ありません。」

医師

<下記事項を入力>

- 患者さんの主訴に添えてシェーマ図を用い、「痛み（－）」とコメントを附記。
- 「（主病）左耳管狭窄症」、「両耳垢栓塞」と診断（傷病名等入力）。

患者さん

・「どうでした？」

医師

・「左耳に関しては、耳管狭窄という疾患です。耳管とは咽頭と鼓室（こしつ）を連絡する管で通常は閉じていますが、この耳管についている小さな筋肉の収縮により、ものを飲み込んだり、唾液を飲み込むときに開かれて、空気は鼓室にこの管から出入りし、鼓室と外耳道の気圧を平衡に保っています。耳管狭窄症では、この働きがうまくいかなくなり、結局鼓室の中の空気がまわりの骨などに吸収され鼓室内が陰圧になり、鼓膜が内側に陥没したり、外部から浸出液が溜まって、聞こえを悪くなるのです。今日は、左耳の閉塞感を取り除くための処置をしておきましょう。また、両耳の耳垢も取っておきましょう。」

<以下の処置を実施>

処置 ①左耳管ブジー法

デカドロン 3.3mg 0.1mL

②耳垢栓除去（両）

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理>

来院日	平成25年9月11日（水）	受付時刻	午前10:30
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「その後、耳の調子はどうですか？」

患者さん

・「以前の状態に戻った気がします。」

医 師

・「そうですか、それは良かった。ちょっと診せてください。」

<患者さんの両耳について視診を実施>

・「もう心配ないと思いますが、前回と同様な処置をしておきましょう。」

<以下の処置を実施>

処置 ●9/9① d o

●両耳垢栓除去（複雑）

患者さん

・「ありがとうございました」

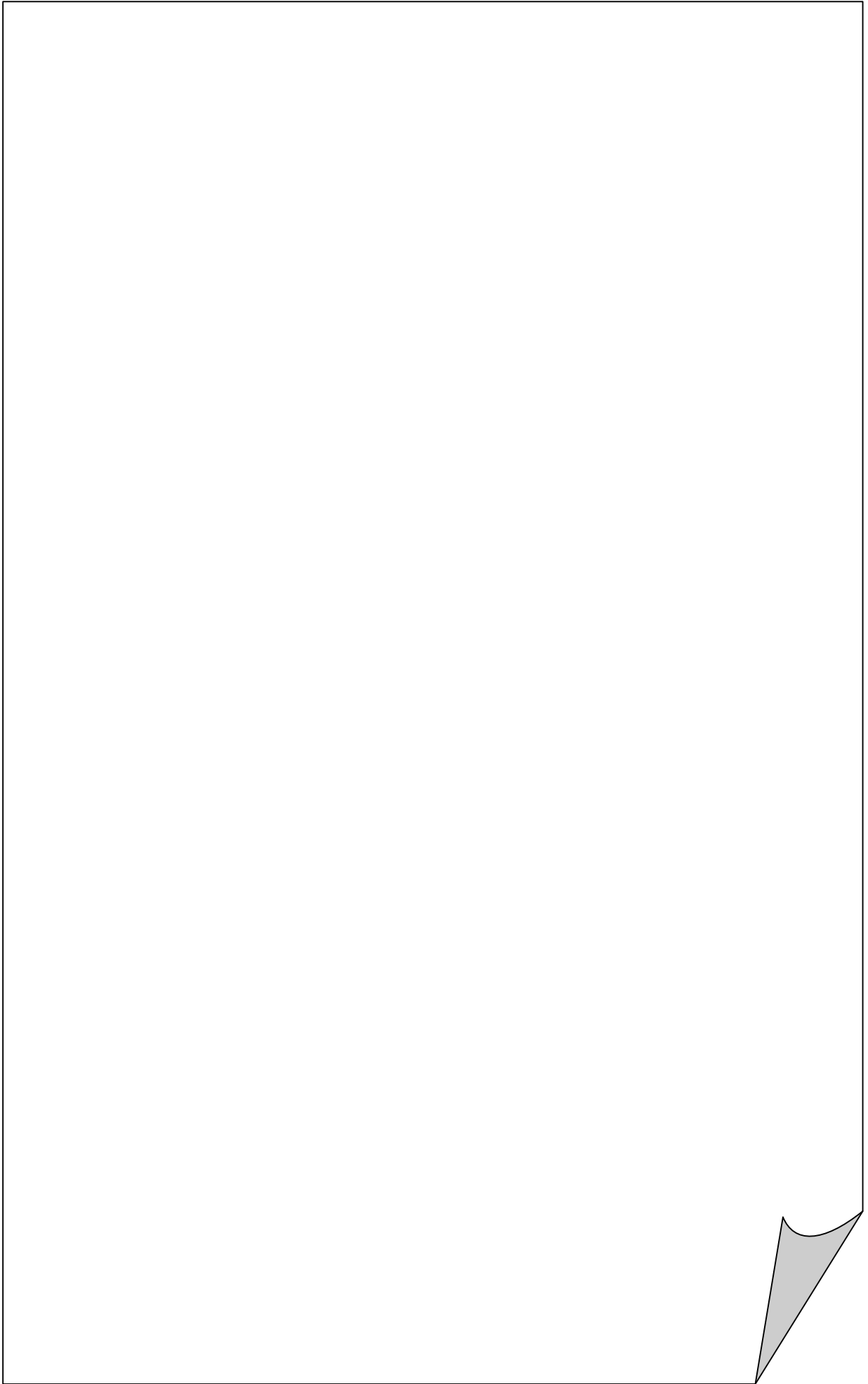
医 師

<下記事項を入力>

●「（主病）左耳管狭窄症」、「両耳垢栓塞」9/11 治ゆ（傷病名等入力）。

【会 計】

<会計処理>



【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	小山 順子			性別	男 (女)			
生年月日	昭和32年8月10日							
保険者番号	138073		記号	21-56		番号	213	
被保険者氏名	小山 茂		被保険者との続柄		妻		一部負担金割合	3割
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率		割	

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります(+)など。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年9月3日					
①バイタルサイン	身長	152.2cm	体重	45.0Kg	体温	36.2℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
最近、突然左目が見えにくくなった。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠）						
●便秘（普通・異常あり〔 〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
数年前より高血圧症状						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ）						
・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日）						
・閉経（歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年9月3日（火）	受付時刻	午前10:30
-----	--------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「本日は、いかがされましたか？」

患者さん

・「最近、左目が突然見えにくくなるがありまして・・・。」

医師

・「左目ですか。ちょっと診せてください。」

<患者さんの左目を視診。下記事項を認める。>

●一面に出血斑
●一部に白斑あり } →シェーマ図を用い、そのコメントとして入力

・「痛みはありますか？」

患者さん

・「いいえ、ありません。」

医師

・（問診票を見ながら）

「血圧も高いようですね。以前、どこかの医療機関で糖尿病又はその疑いといわれたことはありませんか？」

患者さん

・「ないです。」

医師

・「そうですか。始めに視力と血圧を測りましょうか？」

<視力等を測定。下記の測定結果を入力。>

●視力：右（0.1）、左（0.04）

●血圧：145／95

・「右が0.1で左が0.04ですね。

いくつかの検査もしてみましよう。」

<看護師に下記検査を指示。患者さんを誘導。>

●スリットM（前眼部）

●眼圧測定（精）

●精眼底（両）

●BSR

【各検査担当者】

<検査実施。検査結果を報告。>

医 師

<検査結果等より判断し傷病名入力>

●「(主病) 左網膜静脈閉塞症」、「遠視」

患者さん

<診察室に再入室>

・「結果はどうなのでしょう?」

医 師

・「網膜静脈閉塞症という病気です。これは、網膜の静脈血管が詰まって、眼底出血を起こす病気です。この病気は50歳以上に起きやすく、さらに高血圧と深い関連があります。高血圧により網膜の血管が痛められやすいことが影響しています。

小山さんの場合、まだ閉塞が不完全で一時的なものですので、今日は、注射ををしておきましょう。」

<以下の注射を実施>

●グリファージェン静注 20mL 1 A i V

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「薬も出しておきますので、3～4日後また様子をみさせてください。」

<以下の投薬を指示(薬についても患者さんに一通り説明)>

●R P

{	ヨウレチン 6 T
	トラネキサム酸カプセル (250) 3 C

分3 (毎食後) × 4 T D

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供 (文書))

医 師

<以下の検査結果が診察終了後出たので、下記内容を入力>

●B S R (1 s t 18、2 s t 35)

来院日	平成25年9月7日（土）	受付時刻	午前10:30
-----	--------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「あまり変わりありません。」

医師

・「そうですか。ちょっと診せてください。」<診察を実施>

・「今日もこの間と同じ注射をしておきましょう。」

<以下の注射を実施>

●iV 9/3 do

・「再度ですが、眼の検査をしておきましょう。それから前と同じ薬を出しておきますので、薬局で受取ってください。」

<下記検査および投薬を指示。患者さんを誘導。>

●スリットM（前眼部および後眼部）

サイプレジン 1%点眼液 0.4mL

●Rp 9/3 do 14TD

患者さん

・「ありがとうございました。」

医師

<診察の結果として下記事項を入力>

●眼底：出血まだ吸収されず。

【会計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬局】

<薬を投与>

第7号 担当医：田口 三郎（外科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	佐々木 吉伸			性別	男 女	
生年月日	昭和47年4月7日					
保険者番号	01190016	記号	44627715	番号	125	
被保険者氏名	佐々木 吉伸		被保険者との続柄		本人	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割

【問診票】→10/6 なし（休日の急患のため）

【診察内容】…診療実日数3日分

来院日	平成25年10月6日（日）	受付時刻	午後2：00
-----	---------------	------	--------

患者さん

<急患として来院>

医師

・「いかがしましたか？」

患者さん

・「3～4日前より肛門が赤く腫れていまして…、
痛いんです。それがひどくなってきたので…」

医師

・「熱はありますか？」

患者さん

・「38.7℃でした。」

医師

<早々、肛門部を診察>

・「肛門周囲膿瘍ですね。あまり心配はありませんが、膿もありますので
すぐに切開しましょう。」

<下記麻酔・手術を実施>

●局麻 塩プロ1%「小林」 5mL×3A

●肛門周囲膿瘍切開術

<手術と併行し下記検査も実施>

●B-末梢血液一般

●膿細菌（塗抹、培養同定（その他））

●細菌薬剤感受性検査（1菌種）

患者さん

・「ありがとうございました。検査の結果はどうでした？」

医師

・「肛門周囲膿瘍は肛門の周りにできるおできのことをいいます。男性に多い病気です。下痢などの便汁が肛門の内側から肛門のまわりの皮膚にしみ出し、便汁に含まれる大腸菌や腸内細菌による細菌感染から炎症を起こします。今回の結果では大腸菌が影響していますね。」

<検査結果（※）についても説明。>

※検査結果・・・末梢血液一般、S-Mは検査結果を文書にて交付

細菌薬剤感受性検査（1菌種）は、菌（大腸菌）（+）

・「内服薬と殺菌消毒剤を出しておきますので、しばらくは様子をみて下さい。
また、家庭では、下痢にならないように注意しながら、肛門を清潔にすることを心がけて下さい。」

	<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）> ●R P ①アモリン細粒 2.5 分4(毎食後・就寝前)×3 T D ②ヒビテン液 10mL
患者さん	・「お世話さまでした。」
【会 計】	<会計処理>（お薬引換券を渡す）
【薬 局】	<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））
医 師	<本日の診察内容等（患者の主訴、医療行為、検査、投薬）に加え、下記事項を入力> ●「（主病）肛門周囲膿瘍」、「痔瘻」と診断（傷病名等入力）。 ●診察所見、検査結果・・・発熱（+）、膿汁（+）、菌（大腸菌）（+）

来院日	平成25年10月9日（水）	受付時刻	午前9：45
-----	---------------	------	--------

患者さん	<診察室に入室> ・「よろしくお願いします。」
医 師	・「良くなりましたかね？ちょっと診せてください。」<診察を実施> ・「2日前は熱もあったようですが、今はないみたいですね。でも、膿がまだあるみたいですから、処置をしておきましょう。」 <下記の処置を実施> ●術後創傷処置（100 平方 c m²未満） ガーゼ 6 枚
患者さん	・「ありがとうございました。」
医 師	・「症状は良くなっていますが、もう少しですね。引き続き下痢にならないように注意しながら、肛門を清潔にすることを心がけて下さい。」
【会 計】	<会計処理>

医 師

<下記事項を診察所見として入力>

●発熱（－）

●膿汁（＋）

来院日

平成25年10月12日（土）

受付時刻

午前9：20

患者さん

<診察室に入室>

・「おはようございます。」

医 師

・「おはようございます。具合はどうですか？」

患者さん

・「膿が出なくなりました。」

医 師

・「それは良かったですね。ちょっと診てみましょう。」<診察を実施>

・「そうですね、大分良くなってきましたね。もう一息です。

今日も、処置をしておきましょう。」

<下記の処置を実施>

●10/9 処置 d o

・「今日から塗り薬をかえますから、適宜塗ってあげてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P バラマイシン軟膏 30g

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

医 師

<下記事項を診察所見として入力>

●瘻形成（1 c m）

第8号 担当医：山村 正（整形外科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	近藤 正人			性別	男 女	
生年月日	昭和32年11月7日					
保険者番号	01110014	記号	95440180	番号	21	
被保険者氏名	近藤 正人		被保険者との続柄		本人	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割

【問診票】→10/1 なし

*平成25年9月28日：「右肩関節周囲炎」と診断

【診察内容】…診療実日数4日分

来院日	平成25年10月1日（火）	受付時刻	午前10:30
-----	---------------	------	---------

※患者さんは、先に下記のX-P検査を済ませています。

- 右肩関節X-P 画像記録用フィルム：四×二（デジタル撮影（下記も同様））
- 左肩関節X-P 画像記録用フィルム：四×二（健側：右肩関節と比較のため）

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「まだ痛みますか？」

患者さん

・「依然痛みがあります。」

医師

・「どれどれ・・・」

<診察を実施し、下記事項を入力>

- 挙上困難（+）
- 肩X-P：異常なし

・「レントゲンの結果では、異常はありませんね。電気療法等の処置をしておきましょう。」

<下記の処置を実施>

- 電気療法
- 変形機械矯正術

患者さん

・「ありがとうございました。少し楽になりました。」

医師

・「飲み薬を2週間分と貼付薬を出しておきますので、大事にしてください。
また、日常生活上での注意点として、肩の保温に気を付け、動かすときはゆっくりと動かして下さい。肩の関節は動かせる範囲まで動かすように努めて下さい。肩関節が固まって運動が制限され、腕が自由に使えなくなることがあります。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

- R P ①
 - ロキソニン錠 60mg 3 T
 - セルベックスカプセル 50mg 3 C
- 分3（毎食後）×14 T D
- ②カトレップパップ（10cm×14cm） 5枚／袋 5袋

患者さん

・「次はいつ来ればよいのでしょうか？」

医 師

・「しばらくは電気療法等を継続してみたいと思いますので、5日程たったら
またお越しください。」

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供 (文書))

来院日	平成25年10月7日 (月)	受付時刻	午前10:45
-----	----------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。先生、未だに痛みがとれません。」

医 師

・「分かりました。それでは、今日も電気療法等を行いましょう。」

<下記の処置を実施>

●10/1 処置 d o

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理>

来院日	平成25年10月12日 (土)	受付時刻	午前11:00
-----	-----------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

医 師

・「どうですか、やっぱり痛みますか？」

患者さん

・「相変わらず痛みます。」

医 師

・「そうですか。とにかく、今日も電気療法等を行いましょう。」

<下記の処置を実施>

●10/1 処置 d o

【会 計】

<会計処理>

来院日	平成25年10月15日（火）	受付時刻	午前9：30
-----	----------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「症状も改善してきましたか？」

患者さん

・「首の方の痛みは軽くなりました。でも肩は依然痛みがあります。」

医 師

・「そうですか。まだ痛みますか…。どれどれ…。」<診察を実施>

・「今日はいつもの電気療法に加えて注射を打ちましょう。
肩関節の動きがよくなり、痛みがとれると思いますよ。」

<下記の注射と処置を実施>

●肩関節腔内へ局注

アルツディスポ関節注 1筒

●10/1 処置（電気療法のみ） d o

患者さん

・「ありがとうございました。それから、薬がもうなくなるので処方してもらえますか？」

医 師

・「そうですよね。わかりました。」

<以下の投薬を指示>

●10/1 R p ① d o 分3（毎食後）×14TD

10/1 R p ② d o 5袋

患者さん

・「お世話さまでした。」

医 師

・「お大事にしてください。」

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	三和 秀樹	性別	男	女
生年月日	昭和36年10月3日			
保険者番号	31131378	記号	最裁書	番号 01-27
被保険者氏名	三和 秀樹	被保険者との続柄		本人
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年11月7日					
①バイタルサイン	身長	172.5cm	体重	72.3Kg	体温	36.5℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
2～3日前から排尿時に痛み。下腹部がかなり痛い。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠）						
●便通（普通・異常あり〔排尿時に痛み〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔(20)歳より、1日(1合)程度〕 ●たばこ〔(20)歳より、1日(20本)程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ）						
・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日）						
・閉経（歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年11月7日（木）	受付時刻	午前10:25
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「2～3日前から排尿時に痛みがあります。下腹部もかなり痛みます。」

医 師

・「辛そうですね。尿は頻繁に出ますか。」

患者さん

・「尿が近くなりました（頻尿）。尿が出にくく、残尿感もあります。」

医 師

・「そうですか・・・（さらに細かくここ1～2ヶ月の排尿状態について確認）。」

・「尿の検査をしてみましょう。それからX線検査も行ってみましょう。」

<看護師に以下の検査を指示・実施>

●検尿〔E、Z、ウロ、潜血、ビリルビン、沈渣（鏡検法）〕

●尿細菌塗抹

培養同定検査

●BSR、R、W、Hb、Ht、Pl

●尿道単純X-P（アナログ撮影） 4F×1枚

看 護 師

<患者さんを誘導>

【各検査担当者】

<検査実施。検査結果を報告。>

医 師

<検査結果を確認し、下記事項を入力>

●尿濁（+）

●「（主病）急性膀胱炎」、「前立腺肥大症」（傷病名等入力）

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医 師

・「そうですね・・・(病名について説明)。明日朝一番に、膀胱のX線検査等も行いたいのですが、来れますか。」

患者さん

・「大丈夫です。」

医 師

<11月8日、午前9時に膀胱造影X-P検査の予約を入力>

・「今日は、薬を出しておきます。それから、水分を十分とり安静にするようにしてください。」

<水分を十分とり安静にするよう指示した旨入力>

<以下の投薬を指示(薬についても患者さんに一通り説明)>

●R P ①ケフレックス (250) 4 C
分4(毎食後・就寝前)×1 T D
②スルファメトキサゾール 2 g
分1(夕食後)×1 T D

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供(文書))

来院日	平成25年11月8日(金)	受付時刻	午前9:00
-----	---------------	------	--------

※患者さんは、先に下記の検査を済ませています。

- 膀胱造影X-P (アナログ撮影) 4F×4枚
 ウログラフィン注 76%20mL 1A
 膀胱内注入
- 細菌薬剤感受性 (1菌種)

医師

<検査結果を確認し、下記事項を入力>

- 大腸菌 (+)
- 前立腺肥大症 I 期

患者さん

<診察室に入室>

- ・「いかがでしょうか。」

医師

- ・「膀胱炎の方は心配ないでしょう。前立腺肥大の方は、まだ初期の状態ですが、気をつけないといけませんね。投薬治療を続けていくようにしましょう。」

<以下の投薬を指示>

- R P 11/7① d o 分4(毎食後・就寝前)×7 T D
 11/7② d o 分1(夕食後)×7 T D

<「投薬治療を継続し経過観察」と今後の治療について入力>

患者さん

- ・「お世話さまでした。」

【会計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬局】

<薬を投与>

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	山崎 さゆり			性別	男 (女)		
生年月日	昭和36年7月30日						
保険者番号	06120075		記号	1345		番号	8752
被保険者氏名	山崎 信一		被保険者との続柄		妻		
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割	

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年11月11日					
①バイタルサイン	身長	152.7cm	体重	51.3Kg	体温	36.4℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
外陰部に強いかゆみと痛み。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠） ●便秘（普通・異常あり〔排尿時に痛み〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ） ・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日） ・閉経（ 歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年11月11日（月）	受付時刻	午前10:00
-----	----------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「いかがなされましたか？」

<患者さんに症状を尋ねるとその要点は下記のようなようであった>

●外陰部：かゆみ（++）、痛み（+）

●頭重感（+）

●のぼせ感（+）

●排尿痛（+）

●不正性器出血（+）

患者さん

・「どうでしょうか？」

医 師

・「まずは検査をしてみましょう。」

<看護師に以下の検査を指示・実施>

●膣分泌物：細菌塗抹・培養同定

●スメアテスト（膣指膏頭微鏡検査）・子宮頸管粘液採取

●B S R

看 護 師

<患者さんを誘導>

【各検査担当者】

<検査実施。検査結果を報告。>

医 師

<患者さんの主訴に加え、検査結果を確認し下記傷病名等を入力>

●「(主病) トリコモナス膣炎」、「不正性器出血」、「更年期症候群」

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医 師

・「トリコモナスという原虫による感染ですね。それから、更年期障害の兆候が出ていますね。」

患者さん

・「大丈夫なのでしょうか？」

医 師

・「トリコモナス膣炎に関しては、すぐに治りますよ。治療としては、膣洗浄のあと、抗トリコモナス薬の内服を連日 10 日間行います。月経中でも治療を中断することなく、きちんと服用して下さい。

また、内服薬にはアルコール分解を阻害する作用がありますから、治療中は禁酒して下さい。

次に更年期障害に関しては、注射によりホルモン補充療法を行います。

それから、日常生活での注意点として 3 つのことを覚えておいて下さい。

第一に食生活。大豆製品とビタミン C、B₂ 等抗酸化ビタミンを含む食品

それからカルシウムを含む食品を積極的に摂取して下さい。

第二に適度な運動をしましょう。全身の血行を良くし、筋肉をある程度鍛えることで症状も改善されます。

最後にしっかりと睡眠をとることです。

あと、薬を出しておきますので、それで様子をみましょう。」

<上記のように患者さんに生活上の留意点を指導（その旨を入力）>

・「今日は、処置と注射をしておきましょう。また、薬を出しておきますので、しばらく様子をみてください。」

<以下の処置と注射を指示・実施>

●膣洗浄 フランセチンTパウダー 3 g

●ボセルモンデポ筋注 1 A i M

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P ①フラジール内服錠 2 T

分 2 (朝・夕食後) × 3 T D

②コントロール (10) 3 T

分 3 (毎食後) × 7 T D

患者さん

・「ありがとうございました。次はいつ来ればよろしいのでしょうか？」

医 師

・「あさっての午前 9 時に予約を入れておきましょうか。

その時に尿の検査をもう一度行ってみましょう。」

<11月13日、午前9時に尿検査の予約を入力>

患者さん

・「分かりました。お世話さまでした。」

医 師

・「お大事にしてください。」

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供 (文書))

来院日	平成25年11月13日 (水)	受付時刻	午前9:00
-----	-----------------	------	--------

※患者さんは、先に下記の検査を済ませています。

●検尿

尿一般
細菌トマツ
培養同定 (泌尿器)

患者さん

<診察室に入室>

医 師

・「容態はいかがですか？」

患者さん

・「かゆみは大分治まってきました。」

医 師

・ (検査結果も確認しながら) 「それはよかったですね。」
<「症状軽減」とカルテに入力>

・「今日もこの間と同様の処置と注射をしておきましょう。」

<以下の処置と注射を指示・実施>

●膣洗浄 (フラジール膣錠 1 T)

●i M 11/11 d o

・「それから、膣炎の薬がなくなっているでしょうから、処方しておきますね。」

<以下の投薬を指示>

●R P 11/11① d o 分2 (朝・夕食後) × 7 T D

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与>

第 1 1 号 担当医：小林 勉（内科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	井上 小百合			性別	男 (女)			
生年月日	昭和47年6月25日							
保険者番号	06132500		記号	1152		番号	312	
被保険者氏名	井上 小百合		被保険者との続柄			本人		
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割		

【問診票】 →7/8 なし

* 平成 2 4 年 5 月 1 5 日：「鉄欠乏性貧血」と診断

【診察内容】…診療実日数4日分

来院日	平成25年7月8日（月）	受付時刻	午後2：00
-----	--------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「いかがなされましたか？」

患者さん

・「3日前より時々めまいがします。それから、全身がだるく、食欲もだんだんなくなってきています。」

医 師

・「顔色も良くないようですね。井上さんは、以前から貧血気味でしたが、血圧の方はいかがですか？」

患者さん

・「相変わらず低いとは思いますが、今日は測っていません。」

医 師

・「そうですか。それでは、まず血圧を測っておきましょう。続いて血液検査等を行ってみましょう。」

<患者さんの血圧を測定し、看護師に下記の検査を指示し実施>

●糞便中ヘモグロビン

●（血）R、W、Hb、Ht、Pl、Fe、TP、ALP、Tcho、
遊離cho、BUN、グルコース、クレアチニン、UA、K、
Nacl、Ca、T-Bill、D-Bill、TTT、ZTT、
AST、ALT、LD、LAP、γ-GT、
血液型ABO Rh（D）

{ HBS抗原、HBS抗体
HB e抗原、HB e抗体
HBC抗体定量

看 護 師

<患者さんを誘導>

【各検査担当者】

<検査実施。検査結果を報告。>

医 師

<下記事項（診察結果および確認した検査結果等）を入力>

●顔面蒼白

●B-D 100-75 ●Hb：10.0/dL 等、後で説明の検査異常値を入力

●「B型肝炎の疑い」と診断

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医師

・「先ほど実施した検査について説明します。

赤血球、血色素量、ヘマトクリットは主に貧血を調べる検査です。一般的には血色素（ヘモグロビン値）を中心に判定します。女性では 12.0/dL 未満が貧血と判定されます。井上さんの場合は 10.0/dL なので貧血と判断します。急に低下した場合は貧血になった原因を検査した方が良いでしょう。

また、HBs 抗原、抗体、HBe、HBeC の検査は肝炎を調べる検査です。検査の結果、+なのでB型肝炎が疑われます。」

<その他の検査結果省略。検体検査の結果について患者に説明し、文書交付>

患者さん

・「B型肝炎ですか。それは大変な病気でしょうか？」

医師

・「B型肝炎は、B型肝炎ウイルスによって起こる肝臓の炎症です。肝臓に炎症を起こすウイルスは数多くありますが、特に肝臓に感染しやすいウイルスを肝炎ウイルスと言い、A型、B型、C型、D型、E型があります。多くは自然に治っていきませんが、肝炎が急速に進行し、肝臓が機能しなくなる劇症肝炎になったり、肝硬変になってしまうこともあります。」

患者さん

・「病気についてはおおよそのところは理解できましたが、今後どうしていったらよろしいでしょうか？」

医師

・「今日は注射をしておきましょう。また、薬を出しておきますので、しばらく様子を見て見ましょう。後日、他の検査も適宜行っていくことにします。」

<以下の注射を実施。また、投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●inj フェジソ 40mg 1A (iV)

●Rp フェロ・グラデュメット 2T

分2（朝・夕食後）×7TD

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年7月16日（火）	受付時刻	午前9：50
-----	---------------	------	--------

※患者さんは、先に血圧測定を済ませています。

医 師

<患者さんの血圧測定の結果を入力>

●B-D 100-85

患者さん

<診察室に入室>

・「こんにちは。よろしくお願いします。」

医 師

・「その後、様子はいかがですか？」

患者さん

・「そうですね、あまり変わりありません。」

医 師

・「そうですか。それでは、今日も前回と同じ注射をしておきましょう。また、薬も前回と同じのものをを出しておきます。」

<以下の注射を実施。また、投薬を指示。>

●inj d o

●R p d o 分2（朝・夕食後）×7TD

患者さん

・「お世話さまでした。」

医 師

・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>

来院日	平成25年7月22日（月）	受付時刻	午前10:40
-----	---------------	------	---------

※患者さんは、先に血圧測定を済ませています。

医 師

<患者さんの血圧測定の結果を入力>

●B-D 100-80

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「調子はいかがですか？」

患者さん

・「体調不良というのですか、相変わらずめまいがし、身体全体がだるい感じ
です。」

医 師

・「それは良くないですね。それでは今日は別の血液検査を行ってみましょ
う。」

<看護師に下記の検査を指示し実施>

●血) T I B C

U I B C

F e

看 護 師

<患者さんを誘導>

【各検査担当者】

<検査実施。検査結果を報告。>

医 師

<検査結果等、下記事項を入力>

●T I B C、U I B C、F e 全て平均より低い数値。

患者さん

<診察室に再入室>

医 師

・「全体的に数値が低いので、まだ良くなってはいません。特にT I B C、
U I B Cの数値が低いのは、肝炎の特徴です。U I B Cは不飽和鉄結合能
の検査です。鉄分不足の目安です。鉄欠乏性貧血で数値は上昇します。井
上さんの場合は平均値より低いのでもう少し治療が必要です。」

【会 計】

・「それでは、また前回と同じ注射をしておきましょう。薬もなくなったかと思しますので、前回と同じのものを出しておきます。」

＜以下の注射を実施。また、投薬を指示。＞

●inj d o

●R p d o 分2（朝・夕食後）×7 T D

・「ありがとうございました。」

【薬 局】

＜会計処理＞（お薬引換券を渡す）

＜薬を投与＞

来院日	平成25年7月29日（月）	受付時刻	午前9：45
-----	---------------	------	--------

患者さん

＜診察室に入室＞

・「先生まいりました。貧血がひどくなったんでしょうか、めまいが激しくなりまして・・・。」

医 師

・「大分きつそうですね。すぐに血液検査をしてみましょう。」

＜看護師に下記の検査を指示し実施＞

●血）R、W、H b、H t、P l、F e

看 護 師

＜患者さんを誘導＞

【各検査担当者】

＜検査実施。検査結果を報告。＞

医 師

＜検査結果等、下記事項を入力＞

●W：3400、R：250

●「B型肝炎」と診断

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医 師

・「検査の結果をみますと数値が異常値を示しております、白血球数は基準値が $3600 \sim 9000/\text{mm}^3$ ですが、井上さんの場合は最低の 3600 にも満たない状態です。また、赤血球数も基準値は $350 \sim 560 \times 10/\text{mm}^3$ ですが、 $250/\text{mm}^3$ しかありません。できたら、入院して輸血と言うことも考えられます。」

<その他の検査結果省略。検体検査の結果について患者に説明し、文書付>

・「B型肝炎と断定されます。貧血もひどいようですので輸血を行いましょう。今までに、輸血をしたことがありますか？輸血に伴う検査を受けていただきます。」

<看護師に下記の輸血（必要性を文書により説明し同意を得る）を指示し実施>

●輸血 保存血

血液交叉試験

間接クームス

不規則抗体検査

人全血液 200mL 1 袋

看 護 師

<患者さんを誘導>

患者さん

<診察室に再入室>

・「少し楽になったような気がします？」

医 師

・「井上さん、病状から見て即入院をお勧めしたいのですがいかがでしょうか？輸血は通院より入院して治療した方がよいかと思います。通院の途中で貧血を起こして倒れても治療にさわれます。」

患者さん

・「えっ、入院ですか。いつからですか？」

医 師

・「明日からでも可能でしょうか？」

患者さん

・「明日ですか・・・？わかりました。よろしくお願いします。」

医 師

・「さっそくですが、入院手続き等について説明させてください。」

<看護師に指示し、明日入院のため、入院手続きを行う>

【会 計】

<会計処理>

第 1 2 号 担当医：田口 三郎（外科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	山際 由美子			性別	男 (女)			
生年月日	昭和 5 3 年 2 月 1 3 日							
保険者番号	0 1 1 4 0 0 1 1		記号	2 5 4 8 6 5 1 1		番号	3 3	
被保険者氏名	山際 由美子		被保険者との続柄			本人		
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号			負担率	割	

【問診票】→10/5 なし（急患のため）

【診察内容】…診療実日数3日分

来院日	平成25年10月5日（土）	受付時刻	午前7：40
-----	---------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・「おはようございます。朝早くから申し訳ありません。」

医師

・「足をケガされているようですが、いかがされましたか？」

患者さん

・「先ほど自転車に乗っていて、ハンドルを急に切ってしまい転倒してしまいました。その折、右足のふくらはぎを強くぶつけて傷を負ってしまいました。血も出てかなり痛みます。」

医師

・「かなり痛そうですね。ちょっと診せてください。」

<患者さんを診察>

・「けっこう傷が深いですね。すぐ処理をして縫合しましょう。」

<以下の処置（手術）を実施>

●創傷処理

真皮縫合 4cm

デブリードマン

局麻キシロカイン 1%5mL（バイアル）

患者さん

・「ありがとうございました。少しほっとしました。」

医師

・「傷が完全に治るまで少し時間がかかりそうですが心配ないでしょう。炎症予防等の為、注射もおきましょう。炎症予防には先程行ったデブリードマンがとても効果的ですが、汚染が著しい場合や免疫状態が不明の場合、イヌに噛まれた場合などでも直ちに破傷風トキソイドの摂取を行えば、抗体価の上昇による発症予防ができます。また、薬も出しておきますので大事にしてください。」

<以下の注射を実施。また、投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●iM 破傷風トキソイド 0.5mL 1瓶

●Rp ①エンピナースPカプセル 3C

ポリトーゼカプセル 3C

分3（毎食後）×2TD

②ビクシリンカプセル（250） 4C

分4（毎食後・就寝前）×3TD

患者さん

・「先生、今度はいつ来たらよろしいでしょうか？」

医 師

・「そうですね。傷も傷だけに明後日もう一度来てください。」

患者さん

・「わかりました。ありがとうございました。」

医 師

<診察の結果として下記事項を入力>

- 右下腿部に筋肉に達する深い傷（シェーマ図を用い、右下腿部網掛けを施す）。
- 「右下腿挫滅創」と診断（症病名等入力）

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年10月7日（月）	受付時刻	午前10:00
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「おはようございます。先日はお世話さまでした。」

医 師

・「だいぶ落ち着いたみたいですね。傷を診せてください。」

<患者さんを診察し、以下の処置を実施>

- 創傷処置（包交 約300c㎡）

患者さん

・「いかがでしょうか？」

医 師

・「炎症ありませんし、問題ないでしょう。この分ならあと3日もすれば抜糸できるでしょう。」

患者さん

・「そうですか。安心しました。どうもお世話さまでした。」

医 師

・「お大事に。」

医 師

<診察の結果として下記事項を入力>

- 経過良好（炎症もなし）

【会 計】

<会計処理>

来院日	平成25年10月9日（水）	受付時刻	午前11:00
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「こんにちは。よろしくお願いします。」

医 師

・「その後、傷の具合はいかがですか？」

患者さん

・「はい、大分痛みも治まってきました。」

医 師

・「それはよかったですね。ちょっと診せてください。」

<患者さんを診察>

・「傷口も塞がったようですし、もう抜糸してもよろしいでしょう。」

<以下の処置を実施>

●抜糸（創傷処置（100c m²未満））

患者さん

・「ありがとうございます。足がやっと自由になった気がします。」

医 師

・「お大事にしてください。」

医 師

<診察の結果として下記事項を入力>

●経過良好

【会 計】

<会計処理>

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	三浦 真理子			性別	男	(女)	
生年月日	昭和２２年１２月１５日						
保険者番号	０１０１００１６		記号	４４５２６３２１		番号	３４
被保険者氏名	三浦 健二		被保険者との続柄			妻	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割	

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年9月18日					
①バイタルサイン	身長	152.5cm	体重	51.0Kg	体温	36.6℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
以前より鼻づまりがひどい。どろどろした鼻水が出る。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠）						
●便通（普通・異常あり〔 〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ）						
・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日）						
・閉経（歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年9月18日（水）	受付時刻	午前10:00
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「以前から鼻づまりがひどかったのですが、最近どろどろした鼻水が出るようになりまして。何か病気でしょうか・・・。」

医師

・「そうですか。ちょっと診せてください。」

<患者さんを診察>

患者さん

・「いかがでしょうか。」

医師

・「確かに膿んだような鼻水が両側にありますね。何かアレルギー等はありませんか？」

患者さん

・「いいえ、特にありません。」

医師

・「そうですか。苦しいでしょうからまず処置をして、その後いくつか検査を試みましょう。」

<以下の処置を実施>

●副鼻腔洗浄（両）

●ネブライザー（超音波）

ビクシリン注射用 250mg 1瓶

A q 5m L

患者さん

・「ありがとうございました。少しすっきりしました？」

医師

・「それでは検査を試みましょうか。」

<看護師に下記検査を指示し実施>

●鼻部X-P（デジタル撮影）

画像記録用フィルム 6切 1枚（2分割）

●膿・細菌トマツ

●膿・培養同定（呼吸器）

（嫌気性加算）

看護師	<患者さんを誘導> -----
【各検査担当者】	<検査実施。検査結果を報告。> -----
医師	<診察の結果として下記事項を入力> ●鼻部X－P：副鼻腔に陰影 ●「両側慢性副鼻腔炎急性増悪」と診断（症病名等入力） -----
患者さん	<診察室に再入室> ・「いかがでしょうか？」
医師	・「細菌検査の結果は明日ですが、両側慢性副鼻腔炎急性増悪でしょう。」
患者さん	・「それはどんな病気でしょうか？」
医師	・「いわゆる蓄膿症と呼ばれるもので、副鼻腔に慢性の炎症を起こす疾患です。以前は細菌感染による炎症が主な原因といわれていましたが、最近ではアレルギーによる炎症も増加しています。」
患者さん	・「そうですか。」
医師	・「ところで細菌検査の結果を踏まえて別の検査を行いたいのですが、明日は来れますか？」
患者さん	・「大丈夫です。」
医師	・「それでは今日は、薬を出しておきます。」 <以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）> ●ノイチーム（10） 6T 分3（毎食後）×2TD
患者さん	・「ありがとうございました。」
医師	・「お大事に。」 -----
【会計】	<会計処理>（お薬引換券を渡す） -----
【薬局】	<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年9月19日（木）	受付時刻	午前9：30
-----	---------------	------	--------

医 師

<昨日の細菌検査の結果として下記事項を入力>

●ぶどう球菌（+）、緑膿菌（+）

患者さん

<診察室に入室>

・「おはようございます。」

医 師

・「少しは楽になりましたか？」

患者さん

・「いくぶんかは。」

医 師

・「昨日の細菌検査の結果ですが……。鼻腔の周囲には骨に囲まれたいくつかの空洞があり、いずれも鼻腔と連絡していますが、その部分にブドウ球菌、緑膿菌がみられます。」

患者さん

・「そうですか。」

医 師

・「今日は、昨日と同じ処置を行い、その後、細菌に効く薬を決めるため細菌薬剤感受性検査という検査を行いましょう。この検査で細菌の種類もわかりますので、その菌に適応する薬剤を使用して治療します。」

<以下の処置を実施>

●副鼻腔洗浄（両）

●ネブライザー（超音波）

ビクシリン注射用 250mg 1 瓶

A q 5m L

<看護師に以下の検査を指示>

●細菌薬剤感受性検査 2 菌種

看 護 師

<患者さんを誘導>

患者さん

<診察室に再入室>

医 師

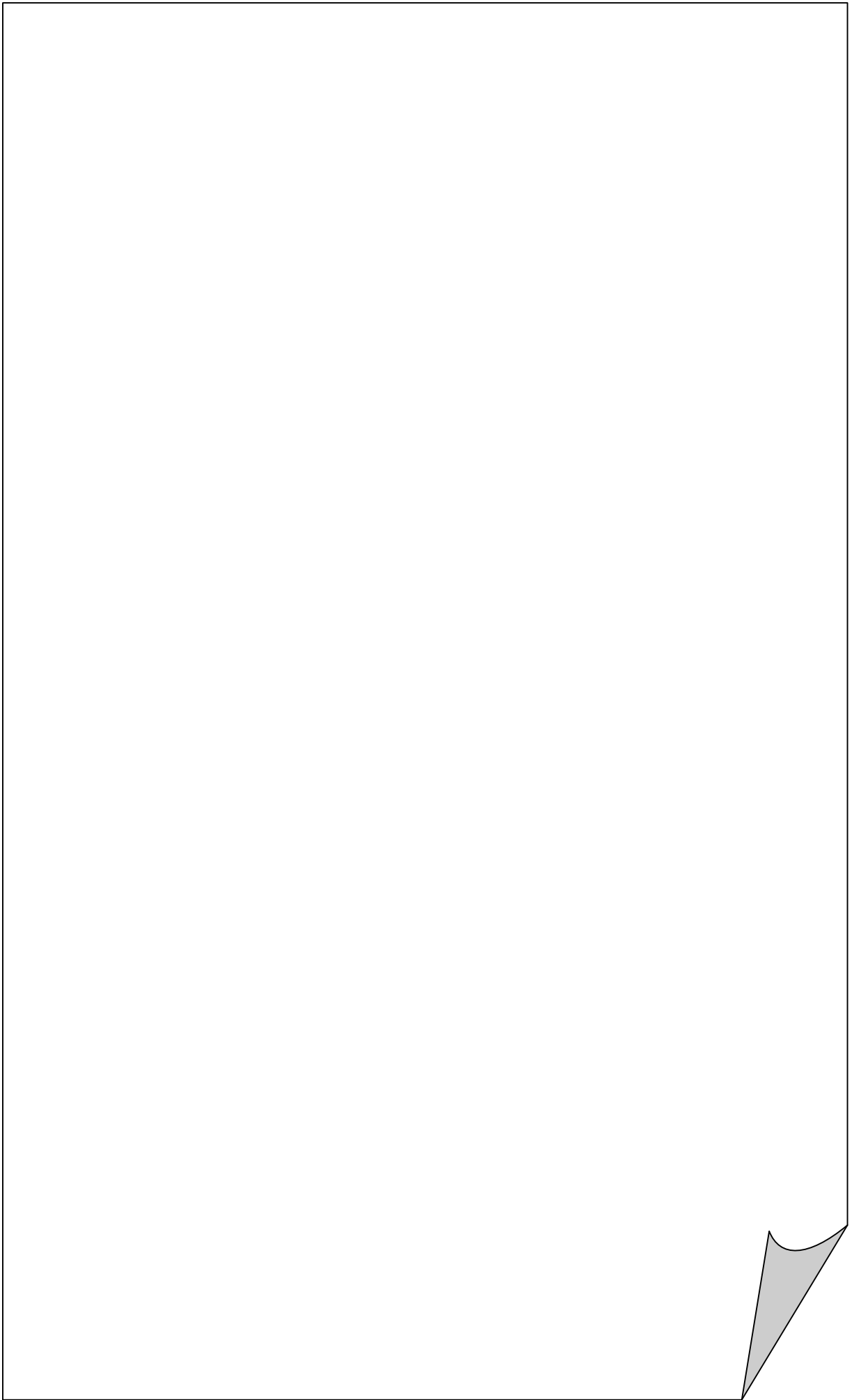
・「三浦さん今後の治療についてですが……。」（治療方針について説明（内容省略）。）

患者さん

・「わかりました。ありがとうございました。」

【会 計】

＜会計処理＞



第 1 4 号 担当医：山村 正（整形外科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	岩田 清子			性別	男 女		
生年月日	平成１４年９月１０日						
保険者番号	０１１３００１２		記号	１５２４６８９２		番号	３０
被保険者氏名	岩田 純一		被保険者との続柄		次女		
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割	

【問診票】→8/25 なし（急患のため）

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年8月25日（日）	受付時刻	午前11:00
-----	---------------	------	---------

※患者さん・・・主に同席の母親の発言によるものとします。

患者さん

<診察室に入室>

・「失礼します。」

医師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「この子が自宅で縫い針を踏んでしまい、折れた針の一部が右足底に残ったようです。少し痛むようです。」

医師

・「それは大変ですね。ちょっと診せてください。」

<患者さんを診察>

・「触診ではちょっと分かりませんので、レントゲンを撮ってみましょう。また、血液検査等も行っておきましょうか。」

<看護師に下記の検査を指示。患者さんを誘導。>

●右足底X-P（デジタル撮影）

画像記録用フィルム 六×1（2分割）

●血算（R、W、Hb、Ht、Pl）

●U：一般（糖、蛋白、潜血）

【各検査担当者】

<検査実施。検査結果を報告。>

医師

<下記診察結果、検査結果を入力。病名も入力。>

●浮腫（+）

●血算：異常なし、U：異常なし

●X-P：右足底に約2cm長の針

*シエーマ図添付：「触診では針をふれない」のコメントを付記

●「伏針（右足底）」と診断

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医師

・「やはり右足底に約2cmの針が残っていますね。すぐ済みますので針を取り除いておきましょう。ところで、破傷風の予防接種はお済みでしょうか？」

患者さん

・「はい、以前に予防注射を受けています。」

医 師

・「わかりました。では、麻酔をした上で手術をしましょう。」

<下記麻酔・手術を実施>

●静麻（短時間のもの）

アトロピン硫酸塩注射液 1mL 1 A
ラボナール注射用 300mg 1 A

●ope：足底異物摘出術

患者さん

・「先生、ありがとうございました。」

医 師

・「ちょっと厄介なケースだと付近の軟部組織ごと切除しなければならないこともあります。針だけの摘出で済んでよかったです。傷口が膿んだりするといけませんので、注射もしておきましょう。また、薬も出しておきますので後で受け取ってってください。」

<以下の注射を実施。また、投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●ビクシリン注射用 250mg 1 瓶 i M
（A q 5mL 使用）

●R p ユナシン細粒小児用 2.4 分3（毎食後）×2 T D

患者さん

・「お世話さまでした。」

医 師

<診察の結果として下記事項を入力>

●緊急O p e 実施

●破傷風：予防注射済み

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年8月27日（火）	受付時刻	午前10:00
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「おはようございます。先日はお世話さまでした。もう大丈夫そうです。」

医 師

・「そうですか。傷を診せてください。」

<患者さんを診察>

・「傷口の炎症ありませんし、もう心配ないでしょう。念のため、前回と同じ薬を出しておきます。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R p 8/25 d o 分3（毎食後）×2 T D

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「お大事に。」

医 師

<診察の結果として下記事項を入力>

●経過良好（炎症もなし）

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	金子 一郎	性別	男	女
生年月日	昭和26年7月19日			
保険者番号	01130012	記号	21695544	番号 273
被保険者氏名	金子 一郎	被保険者との続柄	本人	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります(+)など。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年9月20日					
①バイタルサイン	身長	174.3cm	体重	71.3Kg	体温	37.2℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
2、3日前より鼻水、クシャミ止まらず。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠）						
●便通（普通・異常あり〔 〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
喘息（20代の頃）						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔(20)歳より、1日(2合)程度〕 ●たばこ〔(20)歳より、1日(40本)程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ）						
・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日）						
・閉経（歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年9月20日（金）	受付時刻	午前10:00
-----	---------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「どうされましたか？」

患者さん

・「最近、転勤で地方から東京に引っ越してきたのですが、それから鼻がぐずつくようになり、特に2～3日前より鼻水とクシャミが止まらないようになりまして……。喉も少し痛みます。」

医 師

・「最近といういつ頃ですか？」（他いくつか問診を行う）

<以下の問診内容の要点を入力>

- 2週間程前に転居。咳が出始めたのも同じ時期。
- 築25年の古い社宅で畳部屋にて起居（布団を使用）
- ペットは飼っていない。
- これまで特にアレルギーはなし（花粉症もなし）。家族も同様。

・「ちょっと診てみましょう。」<患者さんの口内の視診を実施>

患者さん

・「先生、いかがでしょうか？」

医 師

・「咽頭が少し赤く腫れていますね。鼻と咽頭の処置をしておきましょう。また、アレルギー性の鼻炎とされますので、特異的IgEという検査を行います。」

患者さん

・「特異的IgE検査ですか。それはどんな検査ですか？」

医 師

・「アレルギーを引き起こすアレルゲン、つまり原因物質を特定するための検査です。金子さんの場合、生活環境の変化が関係しているようですので、血液採取を行い、ハウスダストやダニなどのアレルゲンに反応するかどうかを調べます。」

患者さん

・「わかりました。」

医 師

・「それでは処置と検査を行いましょう。」

<以下の処置・検査を実施>

●鼻処置

●咽頭処置

●ネブライザー

デカドロン 0.33mg

●Uー検

●末梢血液一般

●I g E (R A S T) 5 アレルゲン

(ハウスダスト、ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、スギ、
ブタクサ)

患者さん

<診察室に再入室>

医 師

・「根本的治療のためには、まずは原因となるアレルゲンを特定しなければい
けませんが、検査結果は来週出ますので1週間後に再度お越しください。
それまで内服薬と吸入剤を出しておきますので、大事にしてください。」

<以下の投薬を指示(薬についても患者さんに一通り説明)>

●R p ①セレスタミン配合錠 2T

分2(朝食後・夕食後)×7T D

②タウナスアクアスプレー 1瓶

患者さん

・「それでは来週の9月27日にまた来ます。ありがとうございました。」

医 師

<下記事項を入力>

●咽頭の赤い腫れ(+)

●U検:異常なし、血液:異常なし

●「(主病)アレルギー性鼻炎」、「急性咽頭炎」と診断

●次回予約 9月27日(金)午前10時

【会 計】

<会計処理>(お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与>(薬剤情報提供(文書))

来院日		平成25年9月27日（金）	受付時刻	午前10：00										
医師	<検査室から届いた下記の I g E（RAST）の検査結果を入力> <table><tr><td>●特異的 I g E：ハウスダスト</td><td>クラス5（60.1IU/mL）</td></tr><tr><td>ヤケヒョウヒダニ</td><td>クラス5（63.3IU/mL）</td></tr><tr><td>コナヒョウヒダニ</td><td>クラス5（65.9IU/mL）</td></tr><tr><td>スギ</td><td>クラス1（0.5IU/mL）</td></tr><tr><td>ブタクサ</td><td>クラス1（0.4 IU/mL）</td></tr></table> -----				●特異的 I g E：ハウスダスト	クラス5（60.1IU/mL）	ヤケヒョウヒダニ	クラス5（63.3IU/mL）	コナヒョウヒダニ	クラス5（65.9IU/mL）	スギ	クラス1（0.5IU/mL）	ブタクサ	クラス1（0.4 IU/mL）
●特異的 I g E：ハウスダスト	クラス5（60.1IU/mL）													
ヤケヒョウヒダニ	クラス5（63.3IU/mL）													
コナヒョウヒダニ	クラス5（65.9IU/mL）													
スギ	クラス1（0.5IU/mL）													
ブタクサ	クラス1（0.4 IU/mL）													
患者さん	<診察室に入室> ・「おはようございます。」													
医師	・「その後、調子はどうですか？」													
患者さん	・「薬でいくぶんかは楽になった気がします。」													
医師	・「そうですか。ちょっと診せてください。」 <患者さんの口内について視診を実施> ・「まだ咽頭の腫れはひかないようですね。ところで先週行った特異的 I g E 検査の結果が出ています。」 <検査結果の説明及び生活等に関する療養指導を実施（以下はその要点）> ●ハウスダスト、ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニが7段階クラスのうち5とかなり高い。転居した現在の住まいが原因と思われる。 ●掃除機でこまめに掃除し、部屋の埃やダニを少なくすることが大切。ハウスクリーニングを利用することも効果的。 ●ベッド使用に切り替えたり、フローリングにするなど部屋の環境を改善することも効果的。													
患者さん	・「なるほど。よくわかりました。」													
医師	・「今日は、前回と同様の処置をしておきましょう。」 <以下の処置を実施> ●鼻処置 ●咽頭処置 ●ネブライザー デカドロン 0.33mg													

医 師

・「薬も前回と同じものを1週間分出しておきます。」

<以下の投薬を指示>

- R p ①セレスタミン配合錠 2T
分2（朝食後・夕食後）×7TD
- ②タウナスアクアスプレー 1瓶

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

<下記事項を入力>

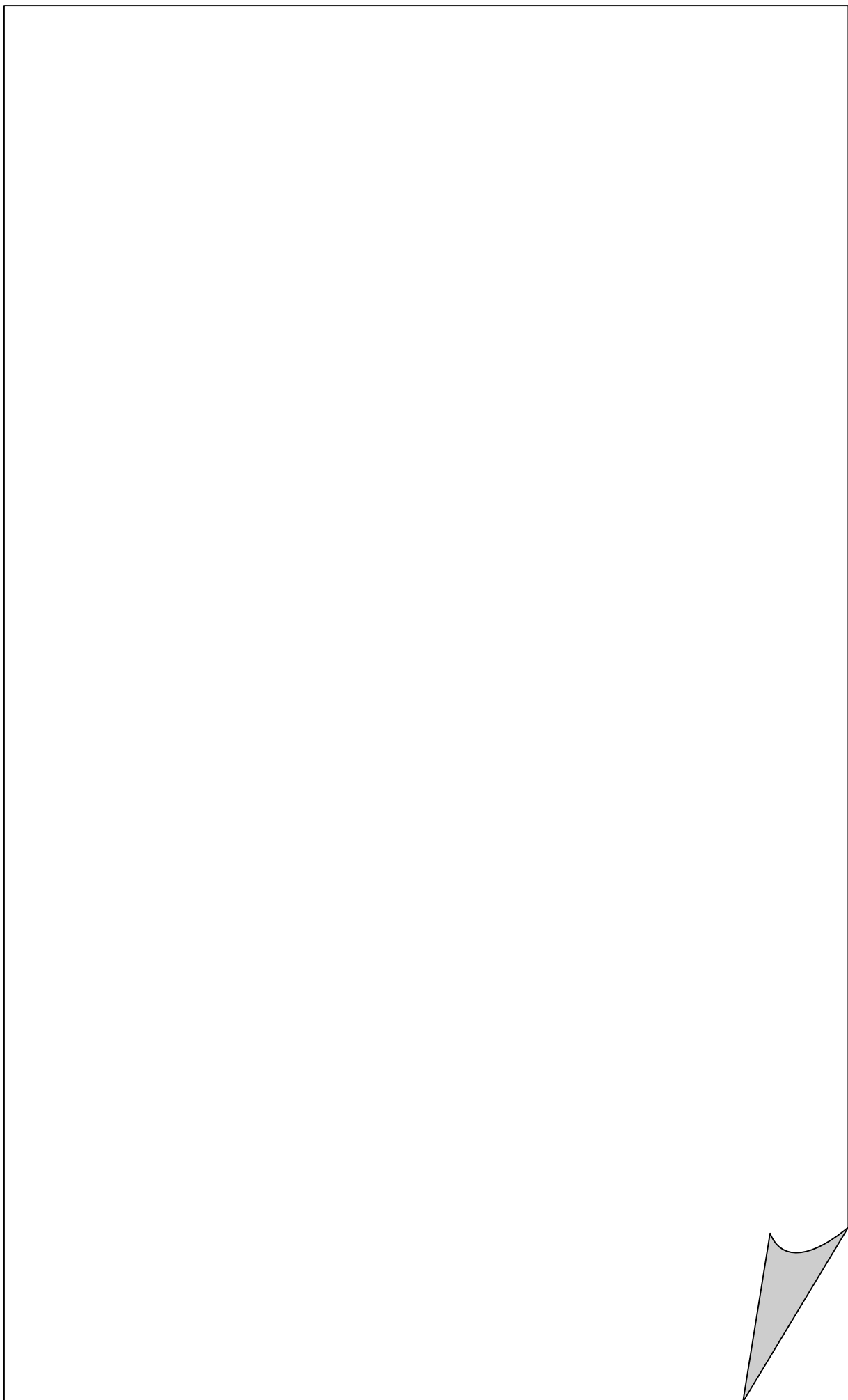
- 咽頭の赤い腫れ（+）
- <検査結果の説明>の要点を「評価（A）欄」へ入力
- <生活等に関する療養指導>の要点を「計画（P）欄」へ入力

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>



【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	松枝 治	性別	男	女
生年月日	昭和39年2月11日			
保険者番号	33130030	記号	警・警視	番号 54-1212
被保険者氏名	松枝 治	被保険者との続柄	本人	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。
＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年10月15日					
①バイタルサイン	身長	169.5cm	体重	66.6Kg	体温	37.0℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
昨夜、両膝関節に激痛が起こった。今朝起きると少し痛みはひいた。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠） ●便秘（普通・異常あり〔 〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（ はい 、 いいえ ） ・授乳中ですか（ はい 、 いいえ ） ・月経（ 順調 、 不順 ） ・最終月経（ 月 日～ 月 日） ・閉経（ 歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年10月15日（火）	受付時刻	午前11:00
-----	----------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医 師

・「膝が痛むようですね？」

患者さん

・「はい。昨晚、両膝関節に激痛がありました。初めてのことでびっくりもしたんですが、今朝起きると少し痛みがひいていました。」

医 師

・「急にですか。歩くのに支障はありますか？」

患者さん

・「痛みを我慢すれば何とか通勤できる感じではあります。」

医 師

・「それは辛いですね。ちょっと診させてください。」

<触診を実施>

・「少し腫れもありますね。熱はいかがですか？身体はだるくはないですか？」

患者さん

・「平熱を考えると高い方かと思います。倦怠感もあります。先生、すぐ治りますでしょうか？」

医 師

・「検査をしてみないと何ともいえませんね。まず血液検査を行い、レントゲンも撮ってみましょう。」

<看護師に以下の検査を指示・実施>

●検査

{	E S R
	A S O 定量、リウマトイド因子定量、
	C R P
	U A

●両膝関節 X-P（デジタル撮影）

画像記録用フィルム（四×1 2分割）

各1枚

医 師

<下記事項を入力>

●両膝の腫れ（+）

●熱（+） ●倦怠感あり

●両膝関節 X-P：異常なし

患者さん

<診察室に再入室>

・「先生、いかがでしょうか？」

医 師

・「レントゲンでは異常は見られませんね。血液検査の一部の結果はまだ出ていませんが、一時的な痛みようです。」

患者さん

・「リウマチとかの心配はありませんか？」

医 師

・「レントゲンでは骨の変形等ありませんし、また、血液検査でも痛風の心配もないでしょう。今日は、痛みが鎮まるような処置を行いましょう。また、薬も出しておきますので、少し様子を見てください。」

<下記の処置を実施。投薬も指示（薬についても患者さんに一通り説明）。>

●ホットパック 2カ所

●湿布処置（両膝部）

パステルハップ 200g

●R p 1) セラピエース (200) 3 T

分3（毎食後）×7 T D

2) パステルハップ 200g

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

医 師

<後で検査室から届いた残りの下記検査結果等を入力>

●E S R $\left[\begin{array}{ll} 1 \text{ s t} & 15 \\ 2 \text{ s t} & 30 \end{array} \right.$

●「両膝関節症」と診断

来院日	平成25年10月17日(木)	受付時刻	午前10:50
-----	----------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「失礼します。」

医 師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「まだ痛みが取れません。」

医 師

・「まだ痛みますか。それでは、今日は注射もして、この間と同じ処置も行っておきましょう。」

<下記の注射・処置を実施>

●関節腔内注射（両膝）

プロカイン塩酸塩注射液 0.5%5mL 1 A

水溶性プレドニン 20mg 1 A

●ホットパック 2カ所

患者さん

・「ありがとうございました。」

【会 計】

<会計処理>

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	高野 信雄	性別	男	女
生年月日	昭和44年5月14日			
保険者番号	01130012	記号	21695544	番号 273
被保険者氏名	高野 信雄	被保険者との続柄	本人	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります(+)など。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年10月22日					
①バイタルサイン	身長	175.5cm	体重	75.6Kg	体温	36.7℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
昨夜、運転中に追突。その後、後頭部が重い。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠） ●便秘（普通・異常あり〔 〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔(20)歳より、1日(2合)程度〕 ●たばこ〔(20)歳より、1日(40本)程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ） ・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日） ・閉経（歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年10月22日（火）	受付時刻	午前9：30
-----	----------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・（首を押さえながら）「よろしくお願いします。」

医師

・「首をどうかされたんですか？」

患者さん

・「昨日、運転中に前の車に追突してしまいまして。急ブレーキをかけたんですが間に合いませんでした。その後、後頭部が重い感じなんです。少し頭もぶつけたようです。」

医師

・「そうですか。痛みはありますか？」

患者さん

・「首に痛みがあり、ちょっと動かしづらいです。」

医師

・「わかりました。ちょっと診させてください。」

<視診・触診を実施>

・「頭部に外傷はないようですね。レントゲンを撮ってみましょう。また、頭部については、外傷がなくとも心配ですので念のためCTも撮ってみましょう。」

<看護師に以下の検査を指示・実施>

●頭部X－P（デジタル撮影） 画像記録用フィルム4F×3

頸椎X－P（デジタル撮影） 画像記録用フィルム6F×4

●CT撮影（頭部）（マルチスライス型、16列未満）

画像記録用フィルム6F×4

医師

<下記事項を入力>

●頭部外傷なし。

●頭部・頸部X－P：異常なし

頭部CT：異常なし

●「頸椎むちうち損傷」と診断

患者さん

<診察室に再入室>

医 師

・(画像データを示しながら)「骨に異常はありませんし、頭蓋内にも損傷等はありません。頚椎の軽いむち打ちですね。痛いでしょうから湿布処置をしておきましょう。また、鎮痛剤等も出しておきます。」

医 師

<下記の処置を実施。投薬も指示(薬についても患者さんに一通り説明)。>

●頚部湿布処置(ハーネシップ 40g)

●Rp 1) ポンタール(250) 3C

セルシン(2) 3T

分3(毎食後)×3TD

2) ハーネシップ 200g

患者さん

・「ほっとしました。ありがとうございました。」

医 師

・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理>(お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与>(薬剤情報提供(文書))

来院日	平成25年10月25日（金）	受付時刻	午前9：00
-----	----------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・「おはようございます。」

医 師

・「痛みのほうはどうですか？」

患者さん

・「まだ、痛みます。」

医 師

・「そうですか。それでは、この間と同じ湿布処置をして、痛み止めの注射もしておきましょう。それから、念のため脳波検査もしておきましょうか。」

<下記注射、処置を実施し、看護師に脳波検査を指示・実施。投薬も指示。>

●カシワドール 20mL 1 A i V

●10/22 d o 処置

●E E G (8) 睡眠賦活法

●10/22 R p d o 3 T D

●10/22 外用 d o 400 g

医 師

<下記事項を入力>

●E E G : 異常なし

患者さん

<診察室に再入室>

医 師

・「脳波検査も特に異常はないですね。通常2～3月内には治りますので心配ないでしょう。疲労を避けながら体を動かしていくようにしてください。」

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	小野 祐司	性別	男	女
生年月日	平成24年8月3日			
保険者番号	06136196	記号	8524	番号 555
被保険者氏名	小野 昭雄	被保険者との続柄	長男	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年8月10日					
①バイタルサイン	身長	71.2cm	体重	9.3Kg	体温	38.5℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
タベより、咳、鼻汁がひどい。咽頭も赤い。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・ <u>なし</u> ） ●睡眠（よく眠れる・普通・ <u>不眠</u> ）						
●便秘（普通・ <u>異常あり</u> 〔下痢気味〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔3歳位の時 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・ <u>なし</u>						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（ はい 、 いいえ ） ・授乳中ですか（ はい 、 いいえ ）						
・月経（ 順調 、 不順 ） ・最終月経（ 月 日～ 月 日）						
・閉経（ 歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】・・・診療実日数2日分

来院日	平成25年8月10日（土）	受付時刻	午前9：30
-----	---------------	------	--------

※患者さん・・・主に同席の母親の発言によるものとします。

患者さん

<子供（患者さん）を連れて診察室に入室>

医師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「この子の様子がタベからおかしくなりました・・・」

医師

<患者さんの訴えている症状の要点（下記）を入力>

●タベから発熱（++）、咳（+）、鼻汁（+）、痰（+）
咽頭発赤（シェーマ図を用いコメントとして入力）

・「ちょっと診せてください。」

<患者さんに聴診等を実施。>

患者さん

・「いかがでしょうか。」

医師

・「急性の咽頭喉頭炎のようですね。原因はウイルスや細菌によるものがほとんどです。鼻の奥から鼻水がのどに流れ落ちて痰になり、咳き込みもひどいようですね。」

患者さん

・「熱もかなり高く心配なんですけど、大丈夫でしょうか？」

医師

・「抗生物質や咳・熱を止める薬を出しておきますので、暫く安静にしてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P ①L ケフレックス小児用顆粒（200） 2.5
ペリアクチンSY 3cc
アスベリンSY0.5% 3cc
分2（朝・夕食後）×3TD
②アンヒバ坐剤小児用 50 2個

・「うがいをよくするようにしてください。また、水分の補給も大事ですし、加湿器を用いて湿度を60～70%に保つようにしてください。朝には窓を開けて空気を入れ換えるなど換気にも注意してください。」

患者さん

・「わかりました。お世話様でした。」

医 師

・「お大事に。」

<下記事項を入力>

- 「急性咽頭喉頭炎」と診断（傷病名等入力）
- 育児栄養指導（うがいの励行等を指示した旨記載）

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年8月13日（火）	受付時刻	午前9：30
-----	---------------	------	--------

患者さん

<子供（患者さん）を連れて診察室に入室>

医 師

・「その後、様子はいかがですか？」

患者さん

・「熱は下がってきたんですが、顔に赤いぶつぶつが出まして・・・。」

医 師

・「ちょっと診せてください。」

<患者さんの体温を測定後、視診等を実施。>

<下記事項を入力>

- KT37.2℃。良化傾向。
- 顔面全体に発疹（シェーマ図を用いコメントとして入力）
- 「顔面突発性発疹症」と診断（傷病名等入力）

患者さん

・「病気が悪くなっているのでしょうか？」

医 師

・「顔面に発疹が出たのは、突発性発疹症といって、高熱が続いたあと、その解熱前後に乳幼児のほとんどがかかる病気です。あまり心配な病気ではありません。今日は、塗り薬も出しておきますが、発疹が消えてしまうまでは、あまり無理をさせないように気をつけてください。また、水分はしっかり補給するようにしてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P 8/10①d o 2 T D

②リンデロンV G軟膏 5 g

患者さん

・「お世話様でした。」

医 師

・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	早坂 みゆき	性別	男	女
生年月日	昭和44年10月20日			
保険者番号	34050013	記号	公立 秋	番号 4567
被保険者氏名	早坂 太郎	被保険者との続柄	妻	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年9月3日					
①バイタルサイン	身長	155.2cm	体重	50.0Kg	体温	36.5℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
昨日より右眼に出血あり。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠）						
●便秘（普通・異常あり〔 〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ）						
・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日）						
・閉経（歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年9月3日（火）	受付時刻	午前10:00
-----	--------------	------	---------

患者さん

<診察室に入室>

・「よろしくお願いします。」

医師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「昨日、鏡を見て右の眼球が赤くなっているのに気付いたのですが、出血しているようです。」

医師

・（患者さんの視診をしながら）「右眼を何かにぶつきましたか？」

患者さん

・「いいえ、そういうことはありません。思い当たることはなく、突然です。」

医師

・「痛みやかゆみはありますか？」

患者さん

・「痛みもかゆみもありません。」

医師

・「今日は眼鏡をされているようですが、普段もされてますか？」

患者さん

・「普段はコンタクトをしています。」

医師

・「わかりました。まだ、何ともいえませんが一通り目の検査をしてみましよう。なお、検査後暫くは見えづらくなりますが大丈夫でしょうか？」

<（患者さんの同意を確認し）視力測定および下記の検査を実施。>

- （検血）出血時間、
全血凝固時間、プロトロンビン時間、
血餅収縮能、毛細血管抵抗、
赤血球抵抗（静脈血）
- 屈折検査
- 細隙燈顕微鏡検査（前眼部）
- 精密眼底（両眼）

・「それでは、少し待合室でお待ちください。後で呼びいたします。」

患者さん

<診察室を退出>

医 師

<下記事項を入力>

- 視力 右 0.1 (1.0×-5.00)
左 0.1 (1.0×-5.00)
- 右結膜下出血 (+) (シェーマ図を用いコメントとして入力)
- 眼底出血 : なし
- 「結膜下出血 (右)」と診断 (傷病名等入力)

患者さん

<診察室に再入室>

- ・「いかがでしょうか？」

医 師

- ・「結膜の血管が破れ結膜の下が出血している状態ですね。結膜下出血というんですが、原因は何ともいえませんが、乾燥やコンタクトの影響によるドライアイかと思われます。」

患者さん

- ・「何か特別な処置や手術とかするんでしょうか？」

医 師

- ・「早坂さんの場合、症状も軽いので1~2週間で出血も自然に吸収されるでしょう。対血管の薬等も出しておきますので、1週間後また様子をみさせてください。」

<以下の投薬を指示 (薬についても患者さんに一通り説明) >

- R P

酸化マグネシウム「ニッコー」	0.2
ゲンチアナ末	0.3
重ソウ「ホエイ」	2.5
アドナ	0.2

分3 (毎食後) ×7TD

患者さん

- ・「ありがとうございました。」

医 師

- ・「お大事に。」

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供 (文書))

来院日	平成25年9月10日（火）	受付時刻	午前9：00
-----	---------------	------	--------

患者さん

<診察室に入室>

・「おはようございます。」

医 師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「出血による赤味が少しづつとれてきました。」

医 師

・（患者さんの視診をしながら）「それはよかったですね。それでは今日も前回と同じ検査を行ってみましょう。」

<下記の処置、検査を実施。>

●細隙燈顕微鏡検査（前眼部）

・「それでは、少し待合室でお待ちください。後でお呼びいたします。」

患者さん

<診察室を退出>

医 師

<下記事項を入力>

●右眼球：黄色。良化傾向。

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医 師

・「大分よくなってきました。今日も前回と同じ薬を出しておきます。この分なら心配ないでしょう」

<以下の投薬を指示>

●R P 9/3 d o 7TD

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>

<入院症例の入力における留意点>

入院（病棟）の場合、看護部門等との連携が複雑多岐にわたるため、外来症例の場合（問答形式）と設問の形式を変えています。下記事項に留意し入力演習を行ってください。

①通常のカルテ問題に医師の入力時刻を付加した形式としています。

②入院の処理フローにおいて外来の場合と大きく異なる点の一つに例えば処方における「定時処方」があります。事前に治療計画が作成されることや設定された診療科別等のオーダー締切り条件（オーダーサイクル）があるため、その都度薬剤部門にオーダーするのではなく（臨時処方）、事前に薬剤部門にオーダーを入れ、薬剤部門で用意した薬剤を看護師が確認・実施し、最終的に医師が確定（確認および電子カルテへの入力（取込み））を行うことになります。無論、患者さんの容態に応じた臨時処方もあります。

本演習問題では、下記の項目については定時処理が行われたものとし、そのオーダー日付を演習問題内に明記するとともに、対象項目を四角囲いとしていますので、定時処理の模擬練習としてください。



処方、検体検査、画像診断（単純撮影）

③電子カルテ自体は、結果的には外来の場合と同様となります。また、入力方法も基本的には同様です。

④食事に関しては、別に管理・確認機能もあるはずですので、入力は割愛します（医事会計までの入力演習を行う場合は、食事に関する入力判断材料としてください）。

担当医：外山 義明（外科）

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	杉山 涼子			性別	男 (女)			
生年月日	平成 2 2 年 1 1 月 9 日							
保険者番号	0 6 2 8 0 6 5 5		記号	1 2 7 9		番号	3 0 9 1 6	
被保険者氏名	杉山 孝平		被保険者との続柄			次女		
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号			負担率	割	

* 平成 25 年 9 月 25 日：「左外鼠径ヘルニア」と診断

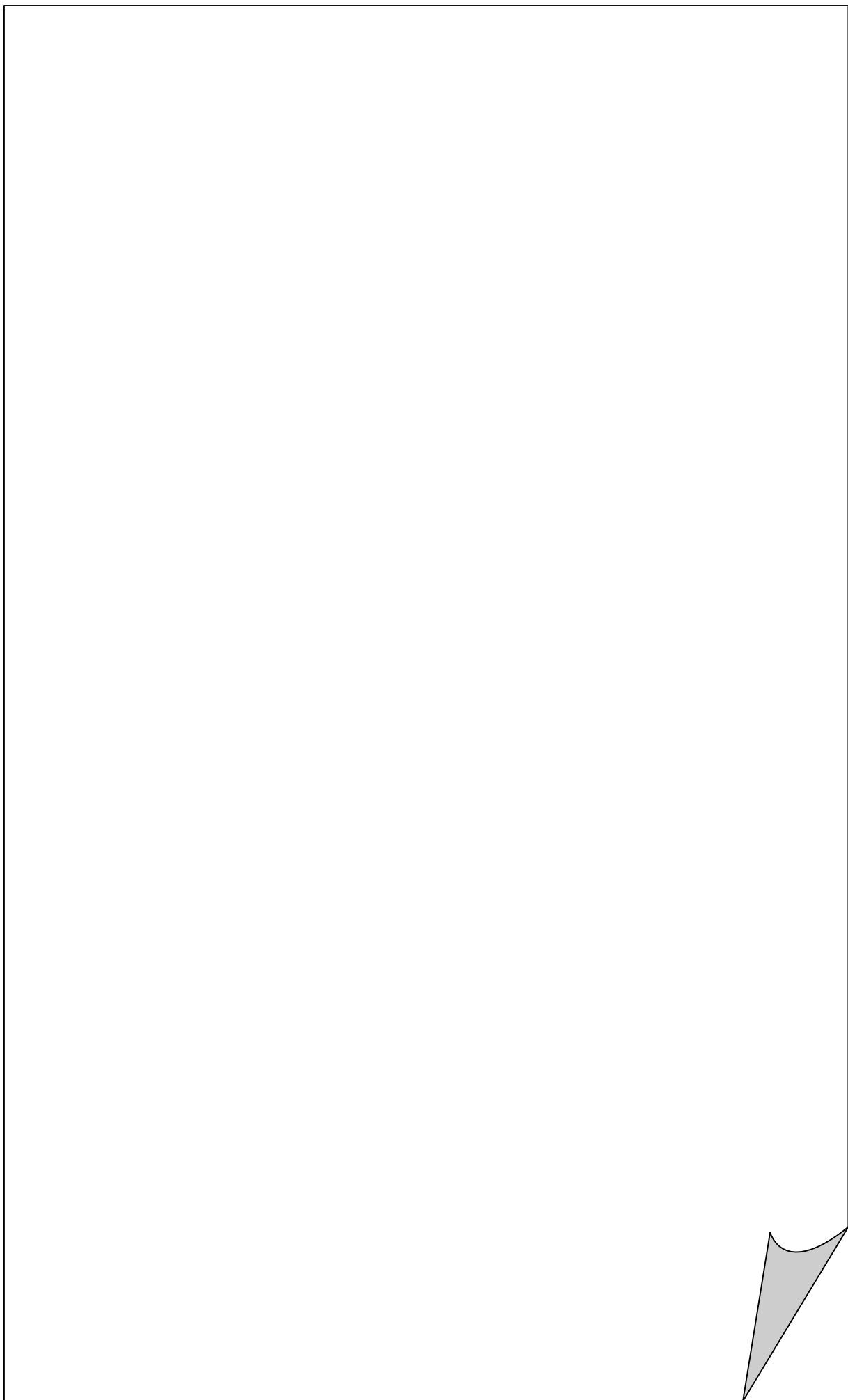
* 本演習問題の入力にあたっては、P.1 の条件に下記条件を加えた条件に基づくものとします。

- 食事療養費（Ⅰ）
- 食堂加算
- 一般病棟 13 対 1 入院基本料
- 地域加算 1 級地
- 療養環境加算
- 短期滞在手術基本料 3

【診察内容等（5日間）】

日付	既往症、原因、主要症状等	処方、手術、処置等
10/5 15:00	手術希望により入院（AM9:00）。 治療計画について文書による説明を実施。 U、B、X-P：異常なし KT36.3℃ 夕から食無	オーダー：10/3 ↓ 1) 尿検（E、Z、ウロビリノーゲン） 2) 検血（R、W、Hb、Ht、Pl） 3) 胸部X-P（デジタル撮影） 画像記録用フィルム（六×一）
10/6 15:00	KT36.5℃ 食無	1) 鼠径ヘルニア手術 2) 閉鎖式全麻 5（ロ） 30分 笑気ガス 90L フローセン 30mL ラボナール 300mg 1A レラキシシ 200mg 1瓶 酸素 100L（LGC 1L：0.3円） 3) 点滴注射 ソリタ T3G 500mL 1瓶 アドナミン静注 100mg 20mL 1A トランサミン 5mL 1A セフォタックス 500mg 1瓶
10/7 17:00	KT36.3℃ 手術翌日の体調良 夜より流動食	オーダー：10/5 ↓ 1) R P パセトシン細粒（100） 2.0 ラックビー微粒N 1.0 分3（毎食後）×3TD 2) コアキシシ注射用 0.5g } i V 生食液「小林」20mL } 1A 3) アドナ注 10mg 0.5%2mL 1A i M 4) 術後創傷処置（1）

日付	既往症、原因、主要症状等	処方、手術、処置等
10/8 15:00	KT36.2℃ 経過良好 全粥	10/7 2) 3) 4) d o
10/9 13:00	KT36.3℃ 本日退院 (AM10:30) 経過良好 常食	10/7 4) d o



第2部 代行入力用演習問題

* ここでは、第1部の演習問題の中から下記2症例を取り上げ、代行入力者による演習問題にデフォルメしています。ドクター秘書の代行入力の模擬体験としてください。また、第1部の他の症例についても同様の試みが可能ですので、工夫を加え同様にして代行入力をお試しください。

* 代行入力の実際（入力箇所や入力のタイミング等）は、医療機関、医師、診療科等により異なることを念頭に置いておいてください。

* 代行入力の場合も医師による入力の場合も、入力操作に違いはありませんが、代行入力の場合、最終的に入力内容に関して医師の承認が必要とされます。

＜演習問題＞	患者名	担当医	診療科	外来・入院		代行入力者	P
第2号	杉山 康太	小林 勉	内科	外来	→	清水 優子	9 6
第9号	三和 秀樹	高橋 光彦	泌尿器科	〃	→	加賀 美加子	1 0 2

《注》演習問題における固有名詞は全て架空です。内容についても問題演習用のための創作で、医学的事実と相違することがありますのでご了解ください。

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	杉山 康太			性別	(男) 女		
生年月日	平成１９年５月１７日						
保険者番号	０６１３００９０		記号	３０		番号	５４８２１５
被保険者氏名	杉山 忠		被保険者との続柄			長男	
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号		負担率	割	

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります((+)など)。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年5月7日					
①バイタルサイン	身長	125.0cm	体重	28.0Kg	体温	37.0℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
昨日から頭痛(+)、咳(+)、痰(+)、食欲不振						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・ <u>なし</u> ） ●睡眠（よく眠れる・ <u>普通</u> ・不眠）						
●便秘（ <u>普通</u> ） 異常あり〔 〕						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔卵 〕・・・いつ頃〔3歳位の時 〕						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・ <u>なし</u>						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕 ●たばこ〔（ ）歳より、1日（ ）程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（ はい 、 いいえ ） ・授乳中ですか（ はい 、 いいえ ）						
・月経（ 順調 、 不順 ） ・最終月経（ 月 日～ 月 日）						
・閉経（ 歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】・・・診療実日数3日分

来院日	平成25年5月7日（火）	受付時刻	午前9：30
-----	--------------	------	--------

※患者さん・・・主に同席の母親の発言によるものとします。

代行入力者

<母親と患者さん（子供）を診察室へ誘導>

医師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「この子の様子が昨日からおかしくなりまして・・・・」

代行入力者

<患者さんの訴えている症状の要点（下記）を入力>

●昨日から：頭痛（+）、咳（+）、痰（+）、食欲不振

医師

・「ちょっと診せてください。」<患者さんに聴診等を実施>

代行入力者

<医師の指示に従い、下記事項を入力。>

●聴診：喘鳴（+）

●咽頭発赤（シェーマ図を用いコメントとして入力）

患者さん

・「いかがでしょうか。」

医師

・「のどかぜですね。喉も少し腫れて赤くなっていますが、心配ないでしょう。喉の処置と注射をしておきましょう。」

<以下の注射と処置の用意を指示し実施>

●スルピリン注射液 25%1mL 1A i M

●ルゴールトイン（口腔咽頭処置）

代行入力者

<上記の診療内容（注射と処置）を入力>

患者さん

・「ありがとうございました。」

医師

・「今日は、薬も出しておきますので、少し様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P {
 アブシードSY 15 c c
 アスベリンSY 12 c c
 アレルギン散 1.0
 リン酸コデイン散 10%「タダ」 0.2

分3（毎食後）×2TD

代行入力者

＜薬局へ院内処方せんオーダー入力＞

医 師

・「安静にして、うがいを励行するようにしてください。」

代行入力者

＜上記指示内容を入力＞

患者さん

・「お世話様でした。」

医 師

・「お大事に。」

代行入力者

＜医師の指示を受け「急性咽頭気管炎」と傷病名等入力＞

医 師

＜入力内容の確認。承認。＞

【会 計】

＜会計処理＞（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

＜薬を投与＞（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年5月13日（月）	受付時刻	午前10:30
-----	---------------	------	---------

代行入力者

<母親と患者さん（子供）を診察室へ誘導>

医 師

・「その後いかがですか？」

患者さん

・「良くなってきたようですが、まだ咽頭が赤く、咳もでます。」

代行入力者

<患者さんの訴えている上記症状を入力>

医 師

・「そうですか、ちょっと診せてください。」<患者さんを診察>

・「もう一息ですかね。今日も喉の処置と注射をしておきましょう。」

<以下の注射と処置の用意を指示し実施>

●フェノバル注射液 100mg 1A i M

●5/7 d o 処置

代行入力者

<上記の診療内容（注射と処置）を入力>

医 師

・「今日は、少し薬を変えておきますので、様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

●R P { アブシードS Y 15 c c
リン酸コデイン散 10% 「タダ」 0.2
メプチンS Y 5 c c
分3（毎食後）×2 T D

代行入力者

<薬局へ院内処方せんオーダー入力>

医 師

<入力内容の確認。承認。>

【会 計】

<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

<薬を投与>（薬剤情報提供（文書））

来院日	平成25年5月20日（月）	受付時刻	午前11:30
-----	---------------	------	---------

代行入力者

<母親と患者さん（子供）を診察室へ誘導>

患者さん

- ・「よろしくお願いします。」
- ・「のどかぜの方は、完全に治ったんですが、別の病気が出まして・・・」

医師

- ・「どんな症状ですか？」

患者さん

- ・「昨日から全身に発赤が出現して、かゆみもひどいようなんです。」

代行入力者

<患者さんの訴えている上記症状を入力>

医師

- ・「ちょっと診せてください。」<患者さんを診察>

代行入力者

<医師の指示に従い、下記事項を入力。>

- 全身に発赤、特に胸膜部、背部著明
- シェーマ図を用い、胸膜部、背部に網掛けを施す。
- 「急性咽頭気管炎」5/14 治ゆ、「汎発性急性湿疹」と診断（傷病名等入力）。

患者さん

- ・「いかがでしょうか。」

医師

- ・「急性の湿疹ですね。かゆみもひどいようですので処置をしましょう。」

<以下の処置を指示し実施>

- 皮膚科軟膏処置 約 1600 cm²

フルコートクリーム	10 g
レスタミンコーワクリーム	30 g

代行入力者

<上記の診療内容（処置）を入力>

医師

- ・「内服薬とかゆい時に塗る薬を出しておきますので、様子をみてください。」

<以下の投薬を指示（薬についても患者さんに一通り説明）>

- R P ①

フラビタンSY	5 c c
ペリアクチンSY	7 c c

分3（毎食後）×5TD
- ②レスタミンコーワクリーム 30 g
(かゆみ時)

代行入力者

＜薬局へ院内処方せんオーダー入力＞

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

＜入力内容の確認。承認。＞

【会 計】

＜会計処理＞（お薬引換券を渡す）

【薬 局】

＜薬を投与＞（薬剤情報提供（文書））

【患者情報】（「保険証」記載内容）

氏名	三和 秀樹	性別	男	女
生年月日	昭和36年10月3日			
保険者番号	31131378	記号	最裁書	番号 01-27
被保険者氏名	三和 秀樹	被保険者との続柄		本人
後期高齢者	保険者番号		被保険者番号	負担率 割

【問診票】（氏名等上記同様部分を除く） ＊バイタルサインは、院内計測の場合を含む。

＊②の症状は、診察時の主訴と同様としてあります(+)など。

初診の方は、下記の質問にお答えください（記入後、受付窓口にお出し願います）。

受診日	平成25年11月7日					
①バイタルサイン	身長	172.5cm	体重	72.3Kg	体温	36.5℃
②いつ頃からどのような症状でお困りですか？（痛みのある場合、その部位は？）						
2～3日前から排尿時に痛み。下腹部がかなり痛い。						
③最近の体調はいかがですか？						
●食欲（あり・普通・なし） ●睡眠（よく眠れる・普通・不眠） ●便通（普通・異常あり〔排尿時に痛み〕）						
④現在かかっている病気はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）からですか？						
特になし						
⑤今までにかかった病気や手術はありますか？また、それはいつ頃（または年齢）ですか？						
特になし						
⑥あなたの家族等の血縁関係者で既往症または現在かかっている病気がありますか？						
特になし						
⑦食べ物や薬や金属等でアレルギーを起こしたことがありますか？（ある場合は記入）						
●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕 ●何で〔 〕・・・いつ頃〔 〕						
⑧現在服用している薬がありますか？						
・あり・・・わかれば薬の名前〔 〕 ・なし						
⑨嗜好品についてお答えください。						
●酒〔(20)歳より、1日(1合)程度〕 ●たばこ〔(20)歳より、1日(20本)程度〕						
⑩女性の方のみお答えください。						
・妊娠中ですか（はい、いいえ） ・授乳中ですか（はい、いいえ） ・月経（順調、不順） ・最終月経（月 日～月 日） ・閉経（歳）						

ご協力有難うございました。順番が来ましたら呼びいたしますので、それまでお待ちください。

【診察内容】…診療実日数2日分

来院日	平成25年11月7日（木）	受付時刻	午前10:25
-----	---------------	------	---------

代行入力者

<患者さんを診察室へ誘導>

医 師

・「いかがされましたか？」

患者さん

・「2～3日前から排尿時に痛みがあります。下腹部もかなり痛みます。」

医 師

・「辛そうですね。尿は頻繁に出ますか。」

患者さん

・「尿が近くなりました（頻尿）。尿が出にくく、残尿感もあります。」

医 師

・「そうですか・・・（さらに細かくここ1～2ヶ月の排尿状態について確認）。」

代行入力者

<患者さんの訴えている上記症状を随時入力>

医 師

・「尿の検査をしてみましょう。それからX線検査も行ってみましょう。」

<以下の検査を指示・実施>

●検尿〔E、Z、ウロ、潜血、ビリルビン、沈渣（鏡検法）〕

●尿細菌塗抹

培養同定検査

●BSR、R、W、Hb、Ht、Pl

●尿道単純X-P（アナログ撮影） 4F×1枚

代行入力者

<各検査の担当部門へオーダー入力。患者さんを誘導。>

【各検査担当者】

<検査実施。検査結果を報告。>

医 師

<検査結果を確認し、下記事項を入力指示>

代行入力者

<医師の指示に従い、下記事項を入力>

●尿濁（+）

●「（主病）急性膀胱炎」、「前立腺肥大症」（傷病名等入力）

患者さん

<診察室に再入室>

・「いかがでしょうか？」

医 師

・「そうですね・・・(病名について説明)。明日朝一番に、膀胱のX線検査等も行いたいのですが、来れますか。」

患者さん

・「大丈夫です。」

代行入力者

<11月8日、午前9時に膀胱造影X-P検査の予約オーダーを入力>

医 師

・「今日は、薬を出しておきます。それから、水分を十分とり安静にするようにしてください。」

代行入力者

<水分を十分とり安静にするよう指示した旨入力>

医 師

<以下の投薬を指示(薬についても患者さんに一通り説明)>

●R P ①ケフレックス (250) 4 C

分4(毎食後・就寝前)×1 T D

②スルファメトキサゾール 2 g

分1(夕食後)×1 T D

代行入力者

<薬局へ院内処方せんオーダー入力>

患者さん

・「ありがとうございました。」

医 師

<入力内容の確認。承認。>

【会 計】

<会計処理> (お薬引換券を渡す)

【薬 局】

<薬を投与> (薬剤情報提供(文書))

来院日	平成25年11月8日（金）	受付時刻	午前9：00
-----	---------------	------	--------

※患者さんは、先に下記の検査を済ませています。

- 膀胱造影X-P（アナログ撮影） 4F×4枚
 ウログラフィン注 76%20mL 1A
 膀胱内注入
- 細菌薬剤感受性（1菌種）

医師

<検査結果を確認し、下記事項を入力指示>

- 大腸菌（+）
- 前立腺肥大症Ⅰ期

代行入力者

<医師の指示に従い、上記事項を入力>

代行入力者

<患者さんを診察室へ誘導>

患者さん

<診察室に入室>
 ・「いかがでしょうか。」

医師

・「膀胱炎の方は心配ないでしょう。前立腺肥大の方は、まだ初期の状態ですが、気をつけないといけませんね。投薬治療を続けていくようにしましょう。」

<以下の投薬を指示>

- R P 11/7① d o 分4（毎食後・就寝前）×7 T D
 11/7② d o 分1（夕食後）×7 T D

代行入力者

<薬局へ院内処方せんオーダー入力>
 <医師の指示に従い「投薬治療を継続し経過観察」と治療方針を入力>

患者さん

・「お世話さまでした。」

医師

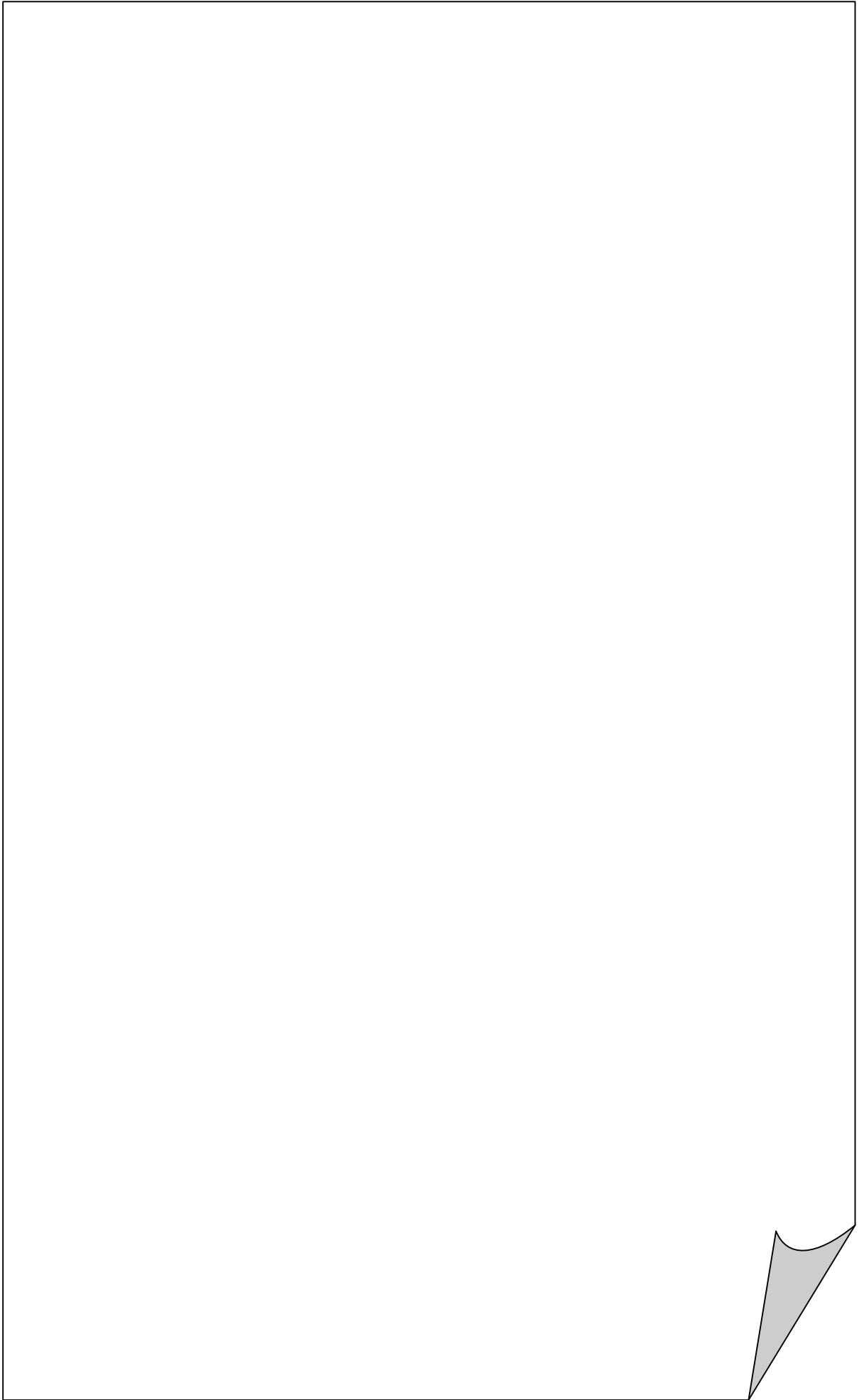
<入力内容の確認。承認。>

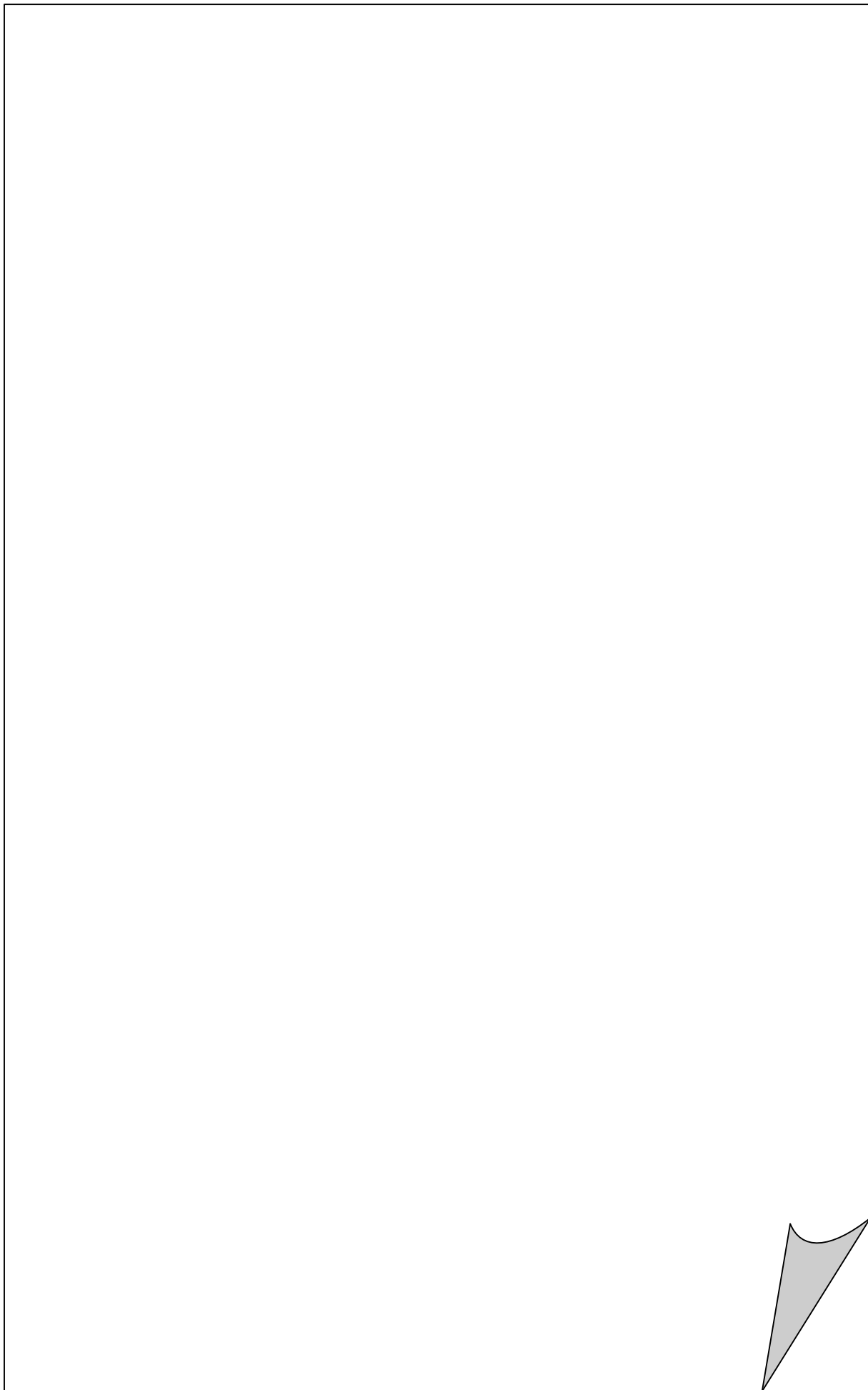
【会計】

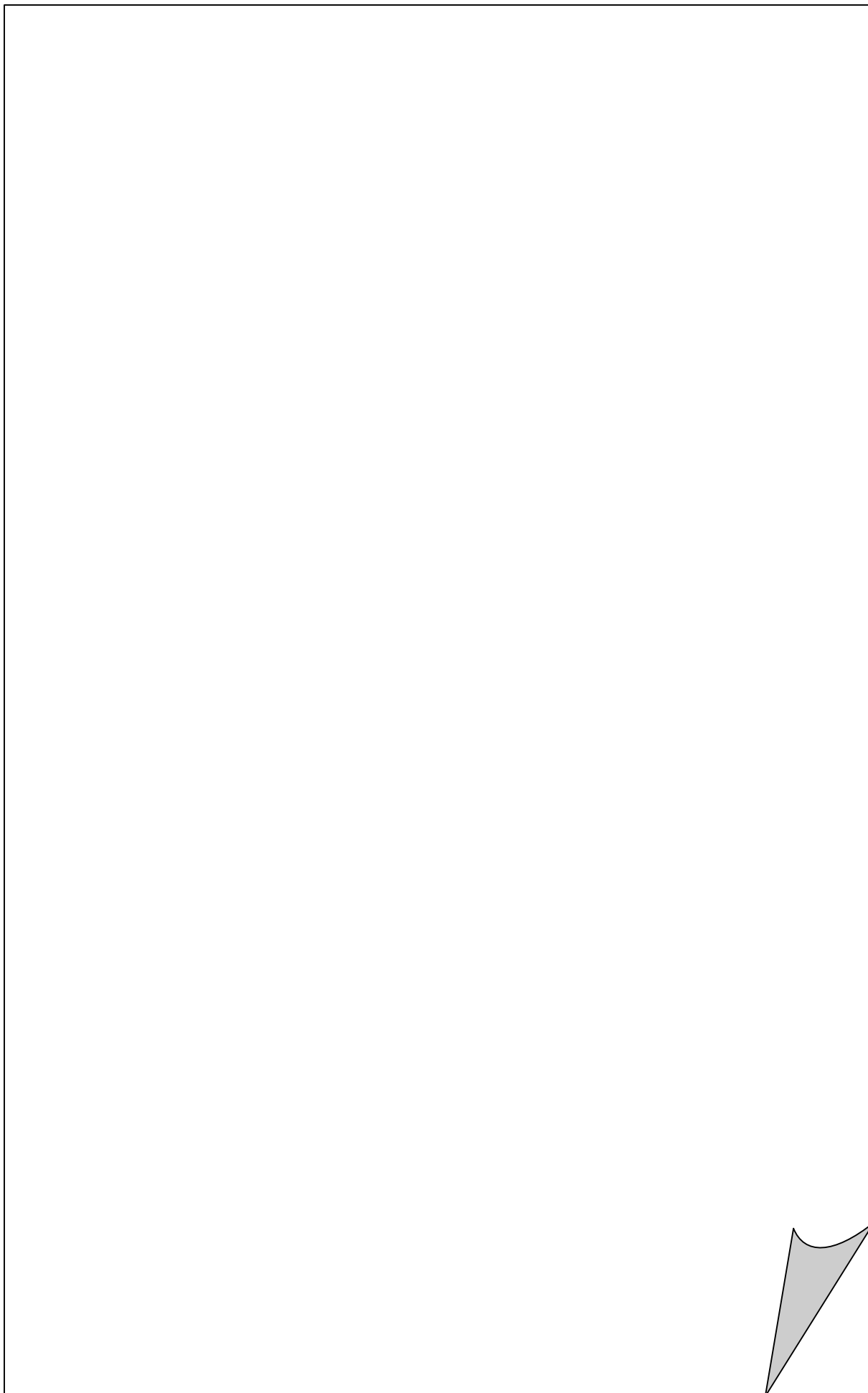
<会計処理>（お薬引換券を渡す）

【薬局】

<薬を投与>







平成25年度 文部科学省
東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

電子カルテ代行入力問題集

平成26年3月
福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

学校法人郡山学院 ケイセンビジネス公務員カレッジ

＊本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます。